

令和4年度

# 事業報告書



社会福祉法人 ゆたか会

# 目 次

1. はじめに	・・・ 1
2. 法人本部	・・・ 2
・ 法人本部（経営推進課）	
・ 介護人材育成事業	
3. 障害者施設支援部	・・・ 8
・ 希望の郷（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）	
4. 相談支援部	・・・ 13
・ 加西市基幹相談支援センターやすらぎ	
・ はんど（計画相談支援・障害児相談支援・自立生活援助事業）	
・ ひょうご発達障害者支援センター加西ランチ	
・ 障害者等相談支援コーディネート事業	
・ 生活困窮者就労準備支援等事業及び生活保護適正化等事業	
5. 介護保険部	・・・ 36
・ 小規模多機能型居宅介護どっこいしょ	
・ 加西市第2層生活支援コーディネート事業	
6. 児童支援部	・・・ 41
・ 加西市障がい児タイムケア事業	
・ 発達障害支援事業所なゆた	
7. 通所系支援部	・・・ 45
・ 多機能型事業所 T H R E E - P	
（就労継続支援 B 型事業・自立訓練（生活訓練）事業）	
8. 共同生活援助部	・・・ 49
・ 共同生活援助大空（大空・なごみ・くつろぎ）	
・ 生活介護輝き	

## 1. はじめに

令和4年度は、事業運営に関して、法人全体として当初の計画通りに進まない状況のまま1年が過ぎてしまうという形になった。

特に、居住系サービスである障害者支援施設“希望の郷”と共同生活援助“大空”において、定員割れの状態が長く続いたほか、長期入院の利用者が複数人出たことから、事業収入が当初予算に届かないという結果になった。この両事業については、日中サービスである生活介護事業と連動するという性格であることから、さらに苦しい運営を強いられることとなった。多機能型事業所“THREE-P”については、令和3年度の報酬改定の結果、利用者数についてはほぼ変わりがないにも関わらず、昨年度から大きな収益減が継続しており、今後の事業運営のあり方についてどのように考えていくか検討が必要な時期にきているように思われる。

また、希望の郷においては、新型コロナウイルスの集団感染が8月と12月に起きてしまい、事業運営の苦しさ追い打ちをかけるということもあった。この件については、職員が一丸となって取り組むことによって、何とか窮地を脱することができたのではないかと考えている。結果的にはチームワークの大切さを改めて感じる機会となった。

このような最悪の状況ではあったが、何とか法人全体の収支はプラスで終えることができたことは今後につながるものであると考えている。

そのほかの面では、人材確保委員会をはじめ、法人全体で考えていくことが必要なことについていくつかの委員会があるが、それぞれの委員会についてはいい形で機能しているように感じている。各委員会に所属している職員はもちろんのこと、そこから他の職員にも法人に対する帰属意識が育ってきているように思う。

次年度に向けては、収入だけを捉えればほとんどの事業で前年比は上回っていることから、今後も各事業所の稼働率を上げていくことを目標にして全職員で取り組んでいけるように意識づけをしていくことが求められる。そのためには、いかにして利用者確保していくかということも考えなくてはならない。その一方で、支出については、人件費や光熱水費の高騰が見込まれることから、無駄な経費の節減に取り組んでいくことができるようにしていく必要もある。また、長期的に法人の運営について考えていくことも大切であると思われる。

部署名：法人本部

①地域貢献の視点			
重点課題	地元・地域との交流事業の推進	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふれあい祭り」は令和3年度に引き続き、令和4年度も新型コロナウイルス感染症のため中止となった。</li> <li>・令和5年度の開催について施設支援部と会議を2回実施し、10月～11月ごろに実施する予定とした。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられることから、10月～11月ごろに実施する予定。今年度は小規模で実施するが、今後は軸となるイベントを企画して、継続できる事業にしていく。</li> </ul>		

②財務の視点			
重点課題	資金収支計画の策定	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金収支状況は管理者会議で毎月報告した。また、グラフや表を用いて視覚的にわかりやすい方法を取り入れて説明した。</li> <li>・決算時に9つの会計指標を用いて説明することができた。兵庫県においても力を入れている指標であることから、継続して実施する。</li> <li>・予算ヒヤリングを各事業所において実施した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金収支状況は引き続き管理者会議で毎月報告する。</li> <li>・各事業所が自身で収入状況の分析ができるよう指導する。</li> <li>・会計指標は標準値を入手し、他法人や平均値と比較できるようにする。</li> </ul>		
重点課題	広報活動の実施	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについて、ホームページの利用頻度や要望などを分析することができず、見直しを行うことができなかった。また、採用に特化したホームページの作成については費用対効果の面で導入できていない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所でのホームページの要望等を整理し、改正が必要かどうか検討する。</li> <li>・広報委員会、人材確保委員会でホームページの内容について検討する。</li> </ul>		
重点課題	法人の事業継続計画（BCP）の作成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続計画（BCP）の専門家を招致し、計画の策定を円滑に図ることとした。</li> <li>・事業継続計画策定委員会を発足させ、計画の策定を開始することができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画策定委員会を定期的の実施し、令和5年度中に各部署の事業継続計画を策定する。</li> </ul>		

③顧客の視点			
重点課題	法人内事業所の事業連携によるサービスの向上	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者会議を毎月定期に開催することができた。</li> <li>・事業計画策定時や中期経営戦略の進捗状況確認時には各事業所とヒヤリングを行い、事業の進捗状況や課題について共有することができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き毎月定期に管理者会議を実施するとともに、事業計画策定時や中期経営戦略の進捗状況確認時、予算策定時などに各事業所とヒヤリングを実施する。</li> </ul>		
重点課題	権利擁護意識の向上	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護意識の向上について、法人全体で行うべきかどうかを検討しており、研修等を行うことができなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護意識だけでなく、倫理意識の向上、あらゆる差別やハラスメントの禁止を推進していくことが法人としての社会的責務であることから、それらに繋がる職員研修を研修委員会と連携して実施する。</li> </ul>		
重点課題	SDGsを取り入れた経営の実践に向けた研究	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsについて独学によって理解を深めることとしたが、具体的に法人ができることを検討するまでには至らなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人がSDGsに寄与できることについて検討し、成果物を作成する。</li> </ul>		

④業務プロセスの視点			
重点課題	組織内交流事業の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修委員会や虐待防止委員会、広報委員会に加えて人材確保委員会を組織し、各事業所間での横断的な事業運営や情報交換を円滑に行うことができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所間を横断する委員会において、各事業所の職員の意見と法人方針をすり合わせて事業を展開する。</li> <li>・仕事だけでなく、各事業所間でイベントを企画するなど福利厚生的な面でも交流事業を検討・実施する。</li> </ul>		
重点課題	施設整備計画の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の郷の改修はハード面だけでなく、事業の内容や規模、職員体制などソフト面においても検討が必要であることから、計画は進捗していない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の郷の改修検討委員会を組織し、事業規模、職員体制なども含めた施設整備計画の策定を開始する。</li> </ul>		

<b>重点課題</b>	<b>第3次中期経営戦略の策定</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・第3次中期経営戦略の策定に向けて、第2次中期経営戦略の中間見直しを実施した。		
<b>次年度に向けて</b>	・長期経営戦略（10カ年）を策定し、法人の長期ビジョンを内外に示す。 ・第3次中期経営戦略策定委員会を設立し、長期経営戦略や第2次中期経営戦略の経過を基に第3次中期経営戦略を策定する。		
<b>重点課題</b>	<b>人事・採用計画の策定</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・人員が不足している部署に補充を行うことができたが、各事業所における適正な人員数を検討することが出来ず、計画的に採用・確保することができなかった。		
<b>次年度に向けて</b>	・各事業所の適正な人員数を算出し、人材を確保する計画を策定する。 ・正規、契約、パート職員の配置を見直し、人件費率を65%程度に抑制する方法を検討する。 ・インターンシップ制度を導入し、人材の確保を図る。		
<b>重点課題</b>	<b>職員の事業計画及び報告の説明会の実施</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・事業計画の説明を辞令交付式とともに実施した。		
<b>次年度に向けて</b>	・引き続き事業計画の説明会を実施する。 ・予算や決算を職員に伝える方法を検討する。		
<b>重点課題</b>	<b>外国人労働者（技能実習生）の受け入れ</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・パート職員（在留資格：家族）を雇い入れした。		
<b>次年度に向けて</b>	・パート職員を技能実習生として受け入れるために、在留資格の変更をサポートする方法を配属事業所と共同して検討したい。		
<b>重点課題</b>	<b>理事運営会議の強化</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・理事運営会議を毎月定期に開催した。		
<b>次年度に向けて</b>	・引き続き理事運営会議を毎月定期に開催する。		
<b>重点課題</b>	<b>計画的な障害者雇用の実施</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・法定障害者雇用率（2.3%以上）は5.1%を超えている。		
<b>次年度に向けて</b>	・引き続き法定雇用率を上回る障害者雇用を行う。		

重点課題	理事会等の定期開催	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会は3ヶ月に一回開催することができた。</li> <li>・評議員会は定時評議員会を開催した。(別表参照)</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3ヶ月に一回の理事会開催を引き続き行う。</li> <li>・評議員会は定時評議員会のほか必要であれば臨時評議員会を開催する。</li> </ul>		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員教育制度の確立	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスに係る研修については、法人本部主幹の研修体系を作成し、各職位に応じた研修を受講させることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスに係る研修について、個人別に研修受講リストを作成し、効果的に研修を受講させる。</li> </ul>		
重点課題	法人運営を担う職員の育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人運営を担うための経験や知識が必要であること、法人本部は収入がないことから、各事業所の収支を人件費に充てるほかなく、現在の収支状況では法人本部に職員を補充することが難しいため人材の確保、育成に着手できていない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の収支及び方針を鑑みながら調整する。</li> </ul>		

## 令和4年度 会議開催実績

## 監事監査

回数	日時	議題	備考
	令和4年5月24日 10:00～12:00	令和3年度事業監査 令和3年度会計監査	

## 理事会

回数	日時	議題	備考
第111回	令和4年6月6日 18:30～19:50	<b>【議決事項】</b> 第1号議案 多機能型事業所THREE-P運営規程の改正について 第2号議案 経理規程の改正について 第3号議案 令和3年度事業報告について 第4号議案 施設整備等積立金の積み立てについて 第5号議案 工賃変動積立金の積み立てについて 第6号議案 令和3年度決算報告(案)について 第7号議案 第34回評議員会の開催について <b>【報告事項】</b> 第1号報告 令和3年度監事監査報告について 第2号報告 財務会計に関する事務処理支援体制の向上に対する支援業務に関する報告について 第3号報告 理事長業務執行事項について 第4号報告 業務執行理事業務執行事項について	評議員会にて報告  評議員会へ議題提出
第112回	令和4年9月28日 18:30～20:40	<b>【議決事項】</b> 第1号議案 育児・介護休業等に関する規程の改正について 第2号議案 健康情報の取扱規程の制定について 第3号議案 衛生管理規程の改正について 第4号議案 令和4年度資金収支補正予算(第一次)について <b>【報告事項】</b> 第1号報告 希望の郷における新型コロナウイルス感染状況について 第2号報告 労働基準監督署による安全衛生指導について 第3号報告 理事長業務執行事項について 第4号報告 業務執行理事業務執行事項について	
第113回	令和5年1月25日	<b>【議決事項】</b> 第1号議案 経理規程細則の施行について 第2号議案 経理規程の改正について 第3号議案 マイクロバスの廃棄について	議決事項の省略
第114回	令和5年3月28日 18:30～20:00	<b>【議決事項】</b> 第1号議案 給与規程の改正について 第2号議案 経理規程の改正について 第3号議案 特定個人情報取扱規程の改正について 第4号議案 令和4年度資金収支補正予算(第二次)について 第5号議案 令和5年度事業計画について 第6号議案 令和5年度資金収支予算について 第7号議案 第三者委員選任について 第8号議案 人事異動(部長職以上)について <b>【報告事項】</b> 第1号報告 理事長業務執行事項について 第2号報告 業務執行理事業務執行事項について	

評議員会

回数	日程	予定議題	備考
第35回	令和4年6月23日 18:30~20:00	<b>【議決事項】</b> 第1号議案 令和3年度決算報告について <b>【報告事項】</b> 第1号報告 令和3年度事業報告について 第2号報告 令和3年度監事監査報告について 第3号報告 理事長業務執行事項について 第4号報告 業務執行理事業務執行事項について	定時評議員会

部署名：障害者施設支援部

①地域貢献の視点																																									
重点課題	事業の推進 (祭りの開催や、モンファボリの運営による地域との交流、活性化)		事業判定	継続																																					
実施状況	<p>・ふれあい祭りは、コロナ禍のため今年度も開催せず、施設内で代替え行事を行った。</p> <p>・モンファボリにおいてもコロナ禍のためイベント実施は見送った。</p> <p>・昨年度より購入者数は微増（4.4%増）であるが、売上は増加した（28.6%）。その原因として、電子マネーの利用者の客単価が高いことが要因の一つと思われる。</p> <p>【購入者数・売上】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>差</th> <th>前年比（%）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>購入者数（人）</td> <td>8,778</td> <td>9,165</td> <td>387</td> <td>104.4</td> </tr> <tr> <td>売上額（円）</td> <td>4,600,208</td> <td>5,913,675</td> <td>1,313,467</td> <td>128.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【現金と電子マネーの比較】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>利用割合（%）</th> <th>売上割合（%）</th> <th>客数（人）</th> <th>売上（円）</th> <th>客単価（円）</th> <th>差額（円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電子マネー</td> <td>12.5</td> <td>15.3</td> <td>1,147</td> <td>908,050</td> <td>792</td> <td rowspan="2">168</td> </tr> <tr> <td>現金</td> <td>87.5</td> <td>84.7</td> <td>8,018</td> <td>5,005,625</td> <td>624</td> </tr> </tbody> </table>							令和3年度	令和4年度	差	前年比（%）	購入者数（人）	8,778	9,165	387	104.4	売上額（円）	4,600,208	5,913,675	1,313,467	128.6		利用割合（%）	売上割合（%）	客数（人）	売上（円）	客単価（円）	差額（円）	電子マネー	12.5	15.3	1,147	908,050	792	168	現金	87.5	84.7	8,018	5,005,625	624
	令和3年度	令和4年度	差	前年比（%）																																					
購入者数（人）	8,778	9,165	387	104.4																																					
売上額（円）	4,600,208	5,913,675	1,313,467	128.6																																					
	利用割合（%）	売上割合（%）	客数（人）	売上（円）	客単価（円）	差額（円）																																			
電子マネー	12.5	15.3	1,147	908,050	792	168																																			
現金	87.5	84.7	8,018	5,005,625	624																																				
次年度に向けて	・令和5年度以降、イベント開催に向けて法人全体で取り組む。																																								
重点課題	利用者(当事者)の社会活動へ参加推進		事業判定	継続																																					
実施状況	<p>・駅舎清掃を毎週水曜日に実施した。清掃以外にも植栽、水やり、チラシ折りを駅舎工房と協力して行った。</p> <p>・市役所でのパン販売を6月から再開した。</p> <p>・健康福祉会館清掃については、今新型コロナウイルスの蔓延等で実施できなかった。</p>																																								
次年度に向けて	<p>・引き続き駅舎の清掃を続ける。</p> <p>・次年度よりパン販売を月2回実施し、販売にかかわる利用者を増やしていく。</p>																																								
重点課題	地域への協力		事業判定	継続																																					
実施状況	<p>・徐々にイベント開催が行われたことにより、善防公民館祭り、社協祭りに参加した。</p> <p>・糶摺りについては、昨年まで休耕田のところが栽培し収穫量が増えたこと、新規受け入れ1件あったことから売り上げが伸びた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th colspan="2">前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ受入れ件数（件）</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>6</td> <td>(+54.5%)</td> </tr> <tr> <td>売上額（円）</td> <td>1,133,493</td> <td>1,795,256</td> <td>661,763</td> <td>(+58.3%)</td> </tr> </tbody> </table>							令和3年度	令和4年度	前年比		延べ受入れ件数（件）	11	17	6	(+54.5%)	売上額（円）	1,133,493	1,795,256	661,763	(+58.3%)																				
	令和3年度	令和4年度	前年比																																						
延べ受入れ件数（件）	11	17	6	(+54.5%)																																					
売上額（円）	1,133,493	1,795,256	661,763	(+58.3%)																																					
次年度に向けて	<p>・徐々にイベントも再開されていることから、積極的に参加、協力をしていく。</p> <p>・引き続き糶摺りの実施を行う。</p>																																								

②財務の視点																																			
<b>重点課題</b>	<b>収入の安定</b> ・施設入所支援事業(定員 50 名)	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>																																
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院の長期化や退所後新規入所者の確保が遅れたことから、前年度より延べ利用者数 ▲521 人、利用率▲2.8%、平均利用者数▲1.5%と低下がした。</li> <li>コロナ蔓延により遅出職員の配置ができなかったことから、重度障害者支援加算(Ⅱ)の算定者数▲411 人/年、▲1.1 人/日となった。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">施設入所</td> <td>営業日数</td> <td>365</td> <td>365</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>18,017</td> <td>17,496</td> <td>▲ 521</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>98.7</td> <td>95.9</td> <td>▲ 2.8</td> </tr> <tr> <td>平均利用者数</td> <td>49.4</td> <td>47.9</td> <td>▲ 1.5</td> </tr> <tr> <td>重度障害者支援加算(Ⅱ)</td> <td>5,106</td> <td>4,695</td> <td>▲ 411</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>14.0</td> <td>12.9</td> <td>▲ 1.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※重度障害者支援加算(Ⅱ)…上段は年間算定者数、下段は1日あたりの算定者数</p>						令和3年度	令和4年度	差	施設入所	営業日数	365	365	0	延べ利用者数	18,017	17,496	▲ 521	利用率	98.7	95.9	▲ 2.8	平均利用者数	49.4	47.9	▲ 1.5	重度障害者支援加算(Ⅱ)	5,106	4,695	▲ 411			14.0	12.9	▲ 1.1
		令和3年度	令和4年度	差																															
施設入所	営業日数	365	365	0																															
	延べ利用者数	18,017	17,496	▲ 521																															
	利用率	98.7	95.9	▲ 2.8																															
	平均利用者数	49.4	47.9	▲ 1.5																															
	重度障害者支援加算(Ⅱ)	5,106	4,695	▲ 411																															
		14.0	12.9	▲ 1.1																															
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院の長期化が見込まれる場合は、短期入所の利用を広報し収入を補う。</li> <li>関係事業所との情報共有を行い、待機者リストの作成と利用希望者の確保を行う。</li> </ul>																																		
<b>重点課題</b>	<b>収入の安定</b> ・生活介護事業(定員 60 名)	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>																																
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設入所と同じく、入院の長期化や退所後新規入所者の確保が遅れたことから、延べ利用者数▲201 人、利用率▲1.2%、平均利用者数▲0.7 人と低下した。</li> <li>コロナ蔓延で通所事業が停止したが、連絡調整を行うことで収入を確保した。</li> <li>家族の入院等による短期入所に併せ、生活介護事業を利用してもらうことで収入の確保に努めた。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">生活介護</td> <td>営業日数</td> <td>269</td> <td>269</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>15,066</td> <td>14,865</td> <td>▲ 201</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>93.3</td> <td>92.1</td> <td>▲ 1.2</td> </tr> <tr> <td>平均利用者数</td> <td>56.0</td> <td>55.3</td> <td>▲ 0.7</td> </tr> </tbody> </table>						令和3年度	令和4年度	差	生活介護	営業日数	269	269	0	延べ利用者数	15,066	14,865	▲ 201	利用率	93.3	92.1	▲ 1.2	平均利用者数	56.0	55.3	▲ 0.7									
		令和3年度	令和4年度	差																															
生活介護	営業日数	269	269	0																															
	延べ利用者数	15,066	14,865	▲ 201																															
	利用率	93.3	92.1	▲ 1.2																															
	平均利用者数	56.0	55.3	▲ 0.7																															
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の充実を図り SNS を通じて発信、PR を行う。</li> <li>好印象を持ってもらえる対応、環境づくりを行う。</li> </ul>																																		
<b>重点課題</b>	<b>収入の安定</b> ・短期入所事業(定員 8 名)	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>																																
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ蔓延により事業停止した期間があり、前年度より利用率の低下がみられた。</li> <li>家族の入院等による長期間の受入れを行った。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">短期入所</td> <td>営業日数</td> <td>365</td> <td>365</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>1,659</td> <td>1,562</td> <td>▲ 97</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>56.8</td> <td>53.5</td> <td>▲ 3.3</td> </tr> <tr> <td>平均利用者数</td> <td>4.5</td> <td>4.3</td> <td>▲ 0.2</td> </tr> </tbody> </table>						令和3年度	令和4年度	差	短期入所	営業日数	365	365	0	延べ利用者数	1,659	1,562	▲ 97	利用率	56.8	53.5	▲ 3.3	平均利用者数	4.5	4.3	▲ 0.2									
		令和3年度	令和4年度	差																															
短期入所	営業日数	365	365	0																															
	延べ利用者数	1,659	1,562	▲ 97																															
	利用率	56.8	53.5	▲ 3.3																															
	平均利用者数	4.5	4.3	▲ 0.2																															
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策を継続しながら受入れを行う。</li> <li>地域生活支援拠点等事業に協力し、緊急時の受入れを積極的に行う。</li> </ul>																																		

<b>重点課題</b>	<b>収入の安定</b> ・日中一時支援事業（定員4名）	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>																						
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ蔓延により事業停止した期間があり、延べ人数▲52人、利用率▲3.6%、平均利用者数▲0.2人となった。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">日 中 一 時</td> <td>営業日数</td> <td>365</td> <td>365</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>499</td> <td>447</td> <td>▲52</td> </tr> <tr> <td>利用率</td> <td>34.2</td> <td>30.6</td> <td>▲3.6</td> </tr> <tr> <td>平均利用者数</td> <td>1.4</td> <td>1.2</td> <td>▲0.2</td> </tr> </tbody> </table>					令和3年度	令和4年度	差	日 中 一 時	営業日数	365	365	0	延べ利用者数	499	447	▲52	利用率	34.2	30.6	▲3.6	平均利用者数	1.4	1.2	▲0.2
		令和3年度	令和4年度	差																					
日 中 一 時	営業日数	365	365	0																					
	延べ利用者数	499	447	▲52																					
	利用率	34.2	30.6	▲3.6																					
	平均利用者数	1.4	1.2	▲0.2																					
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策を継続しながら受入れを行う。</li> <li>・平日利用の促進を図る。</li> </ul>																								
<b>重点課題</b>	<b>コストの削減</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>																						
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均時間外勤務175.9時間/月（1人あたり6.6時間）、前年度比+31.9時間/月（1人あたり+3時間）。コロナ蔓延が3回あった影響が大きい。また職員欠員による代替や記録、会議等による。</li> <li>・時間外勤務については、業務量により個人差が大きい。</li> </ul>																								
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の整理、簡素化を図り、時間外勤務を減らす。</li> </ul>																								

<b>③顧客の視点</b>			
<b>重点課題</b>	<b>支援体制の強化</b> (質の高いサービスの提供)	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の虐待防止チェックリストの結果報告後改善に向けて研修や、自閉症、高齢障害者の活動について研修を行った。</li> <li>・入院した利用者の状況把握がコロナ禍で難しい面があったが、可能な限り情報を集めて対応した。</li> <li>・個別対応について、運営会議や別途時間を設けて協議した。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の高齢化に応じた活動の提案、提供や身体機能の維持などの支援を強化していく。</li> <li>・入院者の状況把握は当面、面会等の制限が継続し難しい状況が続く可能性が高いと思われるが、出来る限り情報を集め柔軟対応できる体制を作る。</li> <li>・高齢化等による本人の状況変化に対応できるよう、ケース検討を実施していく。</li> </ul>		
<b>重点課題</b>	<b>日中活動の充実、見直し</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北はりま障がい者美術公募展に3名が絵画を出展し佳作を受賞した。</li> <li>・昨年度より活動班に拘らない活動の提供として、農作業に他班の利用者が活動に参加する機会を設けた。</li> <li>・コロナ感染状況を見ながら、日帰り外出を実施した。</li> <li>・10月より支援体制検討会を立ち上げ、活動班、内容や環境の見直しを図っている。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動班の再編、作業棟の整備を行い、日中活動の充実に図る。</li> <li>・感染対策を行い、外出の機会を増やす。</li> </ul>		

重点課題	生活支援の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室清掃、シーツ交換は時間を設定することで定着してきた。</li> <li>・整容については朝礼後に確認することで、徐々に定着してきている。</li> <li>・衣類については、衣替えの時期に時間を設定し行っているが、季節の変わり目の寒暖差に対応しきれないところがある。</li> <li>・夜間（就寝前）までの過ごし方として動画観賞やカラオケを実施した。しかし職員配置の関係上、定着までに至っていない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き居室環境の向上に努め、快適な生活が送れるようにする。</li> <li>・整容、季節に合った服装を職員が常に意識し、快適な生活が送れるように支援していく。</li> </ul>		
重点課題	関係機関、学校等への広報活動の強化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習について、他事業所の実習の結果次第で受け入れてほしいと要望があり準備していたが、結果的に実習の受入れはなかった。</li> <li>・特別支援学校1年生保護者の見学受入れをした。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と情報共有を行い、実習の受入れを行う。</li> <li>・オープンスクール等の学校行事に訪問を行う。</li> </ul>		
重点課題	SNS等を活用した広報の充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタグラム90回更新。前年から30回更新回数が増加した。行事だけでなく、日々の様子を伝えることで更新回数が増加しており、利用者家族も楽しみにしているとのことである。</li> <li>・家族向け広報誌「みどりの屋根の下」を毎月発刊し配布を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の様子を積極的に発信していく。</li> <li>・内容の充実を図り、広報誌発行を継続する。</li> </ul>		

④業務プロセスの視点			
重点課題	業務の見直し、効率化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度から日中活動担当と生活支援担当と役割を分けて支援を行っていたが、活動支援の職員が生活支援、生活支援の職員が活動を担うなど負担が増したことにより、10月から以前の勤務体制に戻した。</li> <li>・10月より支援体制検討会を立ち上げ、日課、業務内容等の見直しをしている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援体制検討会を中心に日課、業務の見直しを図り、業務内容を明確にして業務にあたれるようにしていく。</li> </ul>		

重点課題	リスクマネジメントの強化	事業判定	継続																		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止チェックリスト実施した（法人実施2回、施設独自2回）。</li> <li>・事故件数156件、昨年度比▲99件。ヒヤリハット51件、年度比+29件。事故件数の減少はよいことであるが、記録に残っていないことも考えられる。</li> <li>・コロナ蔓延（3回）があり、それに伴い通所事業停止した。※感染者数については下表参照。</li> </ul>																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">期間</th> <th colspan="3">感染者数</th> </tr> <tr> <th>利用者</th> <th>職員</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7/26 ~ 8/18</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>9/9 ~ 10/3</td> <td>29(3)</td> <td>11</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>12/1 ~ 1/9</td> <td>19</td> <td>9</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※（）は通所者</p>			期間	感染者数			利用者	職員	計	7/26 ~ 8/18	3	9	12	9/9 ~ 10/3	29(3)	11	40	12/1 ~ 1/9	19	9
期間	感染者数																				
	利用者	職員	計																		
7/26 ~ 8/18	3	9	12																		
9/9 ~ 10/3	29(3)	11	40																		
12/1 ~ 1/9	19	9	28																		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止研修の実施、調査をおこない虐待ゼロを継続する。</li> <li>・虐待防止チェックリストについては、施設独自でも実施していく。</li> <li>・事故、ヒヤリハットの記録の徹底と分析を行い、事故防止、解決を図っていく。</li> <li>・感染対策の見直し、徹底を図るとともに、想定訓練を行う。</li> </ul>																				

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員内部研修の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月職場内研修を実施したが、施設内にコロナ蔓延した8、9月は実施できなかった。</li> <li>・法人内他事業所に講師を依頼し、研修を実施した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場内研修の実施を継続するとともに、内容や実施回数等について見直しする。</li> <li>・内容によって必要があれば、法人内他事業所に講師依頼をする。</li> </ul>		
重点課題	教育計画の実施と見直し	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中途採用者に対して、職務経験を勘案しながら計画に沿って新人教育を実施した。</li> <li>・OJTについて研修を実施する予定であったが、コロナ蔓延で研修が中止になったことや、虐待防止研修に変更したため実施できなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会議等を通じて、OJTを実施する。</li> <li>・2年目職員のフォローアップを行う。</li> </ul>		

部署名：相談支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	新たな視点での提言ができる職員の育成	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市障害者自立支援協議会や北播磨圏域の会議等へ積極的に参入し、地域に必要なしくみづくり等の発信や研修を行った。</li> <li>・自立支援協議会では、子ども支援連絡会を正式発足させ、児童支援関係事業所の連携強化や教育機関との連携を図る等の場ができた。また、協議会主催のひきこもり研修会を開催した。</li> <li>・北播磨障がい福祉ネットワーク会議 発達障害支援部会では、「トライアングルプロジェクト」をテーマとして、研修会の開催を行った。</li> <li>・CRAFT推進員として、クローバーCRAFTプログラム研修会を開催。 北播磨圏域課題共有会議（副所長、企画課職員、地域保健課職員、北播磨ネットワーク会議事務局、圏域コーディネーター）を開催した。</li> <li>・北播磨県民局と圏域コーディネーターが中心となり、北播磨圏域相談支援研修会を開催した。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も市町及び圏域等の協議会や会議への提言を行い、地域資源の開発や支援体制の構築を目指していく。重点課題は「地域に必要な支援体制の構築」と見直すこととする。</li> </ul>		
重点課題	年齢や障害の有無に関わらず相談対応する	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような相談内容であっても、たらい回しにせず、相談者の話をよく聞き、課題の整理や課題解決に取り組んだ。状況に応じて、必要な支援機関との連携を図り、相談者の状況に応じた支援を提供した。</li> <li>・複合的な課題のあるケースについては、相談支援部内でケース検討し、各部署の強みをいかした支援を行った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援部各部署の機能をいかして、総合的な相談支援が提供できるよう体制構築する。重点課題は「年齢や障害を問わない総合的な相談支援体制の構築」と見直すこととする。</li> </ul>		
重点課題	主任相談支援専門員の拡充	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名の主任相談支援専門員を配置し、法定研修への派遣だけでなく、加西市内及び北播磨圏域での研修等への派遣を行った。研修を通して、相談支援専門員との関係構築ができ、顔の見える関係での連携の基礎をつくることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援専門員の初任者研修でのOJT等への対応を求められている状況がある。事業目標としては終了するが、これまでの取り組みの延長として、地域の相談支援事業所への支援に取り組み、地域の支援力向上に努める。</li> </ul>		

②財務の視点																																																																																																																																											
重点課題	委託費と給付費で事業運営する	事業判定	見直し																																																																																																																																								
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託費収入は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> <li>【加西市】 <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者者（児）委託相談支援事業 27,298,000円</li> <li>生活困窮者就労準備支援等事業及び生活保護適正化等事業 5,978,000円</li> </ul> </li> <li>【兵庫県】 <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者等相談支援コーディネーター事業 4,511,000円</li> <li>ひょうご発達障害者支援センター運営事業 11,412,000円</li> <li>ひきこもり状態にある者の家族支援プログラム人材養成等事業 1,166,220円</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>計画相談支援（障害児相談支援）において、月平均1,692,624円の収入になっており、今年度は毎月の収入の差が少ない状況で推移した。毎月モニタリングの設定により、利用者支援強化したことが、収入増に結びついたと思われる。自立生活援助は、当初の目標を超えた5名の支援を実施したので、予算以上の収入を獲得することができた。 </li> </ul>																																																																																																																																										
		計画相談支援	障害児相談支援	自立生活援助																																																																																																																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>請求月</th> <th>件数</th> <th>給付費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5月</td><td>54</td><td>1,051,865</td></tr> <tr><td>6月</td><td>67</td><td>1,289,076</td></tr> <tr><td>7月</td><td>72</td><td>1,357,851</td></tr> <tr><td>8月</td><td>71</td><td>1,422,697</td></tr> <tr><td>9月</td><td>77</td><td>1,489,293</td></tr> <tr><td>10月</td><td>74</td><td>1,515,017</td></tr> <tr><td>11月</td><td>98</td><td>1,941,462</td></tr> <tr><td>12月</td><td>76</td><td>1,428,805</td></tr> <tr><td>1月</td><td>81</td><td>1,487,380</td></tr> <tr><td>2月</td><td>74</td><td>1,445,775</td></tr> <tr><td>3月</td><td>85</td><td>1,502,793</td></tr> <tr><td>4月</td><td>92</td><td>1,879,361</td></tr> <tr><td>合計</td><td>921</td><td>17,831,505</td></tr> <tr><td>平均</td><td>76.8</td><td>1,485,959</td></tr> </tbody> </table>	請求月	件数	給付費	5月	54	1,051,865	6月	67	1,289,076	7月	72	1,357,851	8月	71	1,422,697	9月	77	1,489,293	10月	74	1,515,017	11月	98	1,941,462	12月	76	1,428,805	1月	81	1,487,380	2月	74	1,445,775	3月	85	1,502,793	4月	92	1,879,361	合計	921	17,831,505	平均	76.8	1,485,959	<table border="1"> <thead> <tr> <th>請求月</th> <th>件数</th> <th>給付費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5月</td><td>6</td><td>134,230</td></tr> <tr><td>6月</td><td>13</td><td>364,790</td></tr> <tr><td>7月</td><td>9</td><td>95,580</td></tr> <tr><td>8月</td><td>8</td><td>357,760</td></tr> <tr><td>9月</td><td>11</td><td>203,940</td></tr> <tr><td>10月</td><td>10</td><td>213,190</td></tr> <tr><td>11月</td><td>9</td><td>246,420</td></tr> <tr><td>12月</td><td>15</td><td>195,730</td></tr> <tr><td>1月</td><td>9</td><td>138,860</td></tr> <tr><td>2月</td><td>10</td><td>279,890</td></tr> <tr><td>3月</td><td>11</td><td>171,410</td></tr> <tr><td>4月</td><td>14</td><td>298,070</td></tr> <tr><td>合計</td><td>125</td><td>2,479,980</td></tr> <tr><td>平均</td><td>10.4</td><td>206,665</td></tr> </tbody> </table>	請求月	件数	給付費	5月	6	134,230	6月	13	364,790	7月	9	95,580	8月	8	357,760	9月	11	203,940	10月	10	213,190	11月	9	246,420	12月	15	195,730	1月	9	138,860	2月	10	279,890	3月	11	171,410	4月	14	298,070	合計	125	2,479,980	平均	10.4	206,665	<table border="1"> <thead> <tr> <th>請求月</th> <th>件数</th> <th>給付費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>5月</td><td>3</td><td>72,255</td></tr> <tr><td>6月</td><td>5</td><td>122,970</td></tr> <tr><td>7月</td><td>5</td><td>120,425</td></tr> <tr><td>8月</td><td>5</td><td>112,790</td></tr> <tr><td>9月</td><td>5</td><td>115,335</td></tr> <tr><td>10月</td><td>5</td><td>110,245</td></tr> <tr><td>11月</td><td>5</td><td>112,790</td></tr> <tr><td>12月</td><td>5</td><td>105,155</td></tr> <tr><td>1月</td><td>5</td><td>110,245</td></tr> <tr><td>2月</td><td>5</td><td>104,750</td></tr> <tr><td>3月</td><td>5</td><td>97,115</td></tr> <tr><td>4月</td><td>5</td><td>99,660</td></tr> <tr><td>合計</td><td>58</td><td>1,283,735</td></tr> <tr><td>平均</td><td>4.8</td><td>106,977</td></tr> </tbody> </table>	請求月	件数	給付費	5月	3	72,255	6月	5	122,970	7月	5	120,425	8月	5	112,790	9月	5	115,335	10月	5	110,245	11月	5	112,790	12月	5	105,155	1月	5	110,245	2月	5	104,750	3月	5	97,115	4月	5	99,660	合計	58	1,283,735	平均	4.8	106,977
	請求月	件数	給付費																																																																																																																																								
	5月	54	1,051,865																																																																																																																																								
	6月	67	1,289,076																																																																																																																																								
	7月	72	1,357,851																																																																																																																																								
	8月	71	1,422,697																																																																																																																																								
	9月	77	1,489,293																																																																																																																																								
	10月	74	1,515,017																																																																																																																																								
11月	98	1,941,462																																																																																																																																									
12月	76	1,428,805																																																																																																																																									
1月	81	1,487,380																																																																																																																																									
2月	74	1,445,775																																																																																																																																									
3月	85	1,502,793																																																																																																																																									
4月	92	1,879,361																																																																																																																																									
合計	921	17,831,505																																																																																																																																									
平均	76.8	1,485,959																																																																																																																																									
請求月	件数	給付費																																																																																																																																									
5月	6	134,230																																																																																																																																									
6月	13	364,790																																																																																																																																									
7月	9	95,580																																																																																																																																									
8月	8	357,760																																																																																																																																									
9月	11	203,940																																																																																																																																									
10月	10	213,190																																																																																																																																									
11月	9	246,420																																																																																																																																									
12月	15	195,730																																																																																																																																									
1月	9	138,860																																																																																																																																									
2月	10	279,890																																																																																																																																									
3月	11	171,410																																																																																																																																									
4月	14	298,070																																																																																																																																									
合計	125	2,479,980																																																																																																																																									
平均	10.4	206,665																																																																																																																																									
請求月	件数	給付費																																																																																																																																									
5月	3	72,255																																																																																																																																									
6月	5	122,970																																																																																																																																									
7月	5	120,425																																																																																																																																									
8月	5	112,790																																																																																																																																									
9月	5	115,335																																																																																																																																									
10月	5	110,245																																																																																																																																									
11月	5	112,790																																																																																																																																									
12月	5	105,155																																																																																																																																									
1月	5	110,245																																																																																																																																									
2月	5	104,750																																																																																																																																									
3月	5	97,115																																																																																																																																									
4月	5	99,660																																																																																																																																									
合計	58	1,283,735																																																																																																																																									
平均	4.8	106,977																																																																																																																																									
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の委託費が増額になり、計画相談支援で丁寧な支援を継続することにより、経営的に黒字化を目指せる状況になってきていると思われる。重点課題は「事業所経営の黒字化」と見直すこととする。</li> </ul>																																																																																																																																										
重点課題	自立生活援助事業の充実	事業判定	終了																																																																																																																																								
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>加西市内在住の一人暮らしの方への支援（定期訪問・同行等）を行った。計画相談支援と連携し、計画相談支援では行き届かない細かな支援や本人に寄り添った関わりをしている。事務処理が煩雑で収入とのバランスを考えると経営面へ大きな効果は出ていない。</li> </ul>																																																																																																																																										
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用期間延長による減算状況ではあるが、セルフネグレクトや本人の不安感に寄り添う支援の必要性を受け止め、今後も事業継続していく。重点課題は終了する。</li> </ul>																																																																																																																																										

重点課題	計画相談での加算獲得徹底	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談支援において、年間 434 件、月平均 36.2 件の加算取得ができた。障害児計画相談支援においては、年間 22 件、月平均 1.8 件の加算取得ができた。</li> <li>・加算取得への認識は高まっており、加算対象になる支援を実施した場合には、記録等の事務処理も適切にできるようになっている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなシステムの導入により、これまで以上に丁寧な支援を意識し、記録等の事務処理を確実にを行うことが基本的な業務として定着させていくことが求められる。重点課題として継続して取り組むこととする。</li> </ul>		

③顧客の視点			
重点課題	自立生活援助事業の活用	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談担当者と連携を図り、利用者の望む暮らしに必要な支援（一人暮らしの継続を目指した支援）を提供した。</li> <li>・利用者の不安等に寄り添いながら、在宅支援サービスへ繋ぐことで支援を終了できる人もいれば、家事等は概ね一人でできるものの、毎週の確認や助言が必要な方、セルフネグレクトに陥る危険のある方がおり、単年度での支援では不十分な状況があった。</li> <li>・本人の意向を確認し、利用期間延長の申請を行ったが、サービスを継続するには、具体的な目標設定とそれを達成することが必要と行政指導を受けた。目標達成できない場合は支援を終了するよう指示が出ているが、一人暮らしというのは、何かができるようになれば安定するものではなく、障害のある方に常に寄り添う関わりが必要と考えている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業は継続し、行政指導に基づいた支援を実施していく。</li> <li>・目標達成できない場合、支援を終了しなければならないという状況は受け入れがたいものがあり、今後も行政機関と意見交換が必要と考える。</li> <li>・現在の支援について認められない場合は、事業継続の検討が必要と思われる。</li> </ul>		
重点課題	個別支援の充実	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援部における各事業（一般相談支援、アウトリーチ支援、生活困窮者支援、計画相談支援、在宅生活支援、発達障害支援）を通して、一人ひとりのニーズに合わせた関わりを行い、自己実現に向けた支援を提供するべく、丁寧な対応を実践した。</li> <li>※各事業での実績については、別紙参照</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業を通して、利用者一人ひとりのニーズに合わせた支援を提供してきた。相談支援事業としては、個別の関わりから地域ニーズを把握し、地域課題の抽出をすることが求められている。重点課題は「地域ニーズの把握」に変更する。</li> </ul>		

重点課題	幅広い相談内容に対応	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月代表者会議を開き、各事業の支援状況等を確認した。年齢や障害の有無を問わず、困り事を抱えた方の話を聞きながら、課題の整理や問題解決へ向けた提案等を行い、必要に応じて関係機関との連携を図った。</li> <li>※各事業での実績については、別紙参照</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業が市民レベルでの浸透を図ることはできていない状況で、国からも相談窓口や役割の明確化に取り組むよう方向性が示されている。重点課題は「相談窓口の明確化」に見直すこととする。</li> </ul>		

④業務プロセスの視点			
重点課題	業務整理（自立生活援助事業）	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談支援との連携を図り、適時情報共有することで、本人の意向に合わせた支援を進めることができた。事務処理の効率化を図るべく書式の簡素化したが、必要な事務が多く、高い効果を得ることはできなかった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談支援との連携はできているが、事務処理の簡素化は難しく、業務をスムーズに進めるには、個別支援計画に基づいて、支援内容を厳選し、利用者対応のスケジュール調整や職員配置の検討をしていく必要がある。ケアカルテ導入による記録業務の効率化を図る。重点課題を「効率的な業務遂行」に見直すこととする。</li> </ul>		
重点課題	業務整理（計画相談支援）	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規相談の受け入れができるよう体制整備を行い、24名の利用者の受け入れができた。市内の相談支援事業所への引き継ぎ等の調整も行い、事業所単独ではなく、事業所間の連携（自立支援協議会：相談支援連絡会）を深めている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加西市内にはセルフプランでのサービス利用をしている方も多く、今後も相談支援専門員の対応が求められている。相談員一人当たりの利用者数が増えており、効率的に業務遂行することが必要である。重点課題は「効率的な業務遂行」に見直すこととする。</li> </ul>		
重点課題	職員配置の検討	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月に事業ヒヤリングを実施し、職員配置について検討した。現状での職員増員は難しく、経営改善が求められている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談支援（障害児相談支援）での収入増、適正な委託費収入の獲得、人員配置の検討を行い、経営改善に向けて取り組み、職員が増員できるよう努める。</li> </ul>		
重点課題	時間外勤務の削減	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日8時間の勤務時間内で業務遂行することを心がけ、業務内容の精査、計画的・効率的な実践を進めてきた。昨年度実績より、ひと月あたり一人2時間の削減ができた。</li> <li>・各部署においては、やすらぎは▲4時間、はんどは±0時間、ブランチは▲1時間の状況となっている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間内での業務遂行のためには、業務内容を見直し、スリム化を図ることも必要になっている。重点課題は「業務の見直し」に変更する。</li> </ul>		

重点課題	困難ケースへの対応	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月代表者会議で、各部署の支援状況を確認し、対応の難しいケースには相談支援部内の連携を図り、課題解決に取り組んだ。職員が一人で抱え込むことなく、相談や連携しながら解決していく体制をつくることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も代表者会議で支援状況を確認し、必要に応じて、職員間の連携を図っていくが、重点課題としての取り組みは終了する。</li> </ul>		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	新たな視点での提言ができる職員の育成	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部署の会議及び代表者会議で新たな企画等の内容について検討を行い、加西市障害者自立支援協議会や北播磨圏域の会議等で提言した。地域課題の解決に向けた取り組みが進められるよう検討の場を提言することができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は北播磨障がい福祉ネットワーク会議の当番市となる。日々の実践を通して地域課題の把握をし、その解決のための具体的な方策を導くリーダーとして取り組みを進めていく。</li> </ul>		
重点課題	外部研修の機会の確保	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1名外部研修に参加できるよう業務等の調整を行い、研修後には復命の場として報告会を実施し、テーマに沿った意見交換をする機会を確保した。</li> <li>学びの共有と意見交換により、研修受講者だけでなく、職員個々に新たな気づきがあり、スキルアップやチーム作りに繋げることができた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修参加にはバラつきがあり、職員間で差が出ている。一方で業務に追われ、主体的に研修参加しにくい状況がみられる。常に自己研鑽の意識をもち、自身のテーマに対して学ぶ意欲をもってもらいたい。重点課題は「積極的な外部研修への参加」に見直すこととする。</li> </ul>		
重点課題	事業所内研修の実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者会議で年3回の研修会実施を検討した。北播磨圏域の委託相談支援事業所にも参加してもらい、共に学ぶ機会を設けることができた。知識や技術の獲得だけでなく、相談支援業務に必要な発言力が身につけられるよう、グループワークでは意図的な質問、根拠を示した発表を意識して意見交換する機会を設けた。</li> <li>参加者からは好評で次年度の開催を期待されている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の取り組みを継続し、情報収集や分析の力、課題解決へ導く行動力、地域を巻き込み発信する力等が身につけられるよう企画立案する。</li> </ul>		

令和4年度 加西市基幹相談支援センターやすらぎ 事業報告資料

1 相談件数について

1. 委託相談支援事業

(1) 相談件数の推移

相談件数について (延件数)

単位：件

項目	件数					
	H29	H30	H31	R2	R3	R4
件数	11,575	10,157	11,953	14,212	11,235	10,061

(2) 相談実人数の内訳

実人数 (新規・継続) について

単位：人

項目	実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他
新規	44	3	0	10	17	8	0	1	5
継続	480	44	8	147	173	64	3	4	37
合計	524	47	8	157	185	72	3	5	42

(3) 相談方法別件数の推移

相談方法 (延件数)

単位：件

項目	件数					
	H29	H30	H31	R2	R3	R4
訪問	1,382	1,173	1,414	1,398	1,037	942
来所	1,514	1,331	1,433	1,398	998	959
同行	406	403	444	504	575	429
電話	4,794	3,962	4,902	6,011	2,658	2,193
メール	854	843	845	1,330	831	916
FAX-文書	12	24	26	35	3	16
支援会議	135	131	167	157	193	179
関係機関	2,429	2,200	2,661	3,323	4,938	4,414
その他	49	90	61	56	2	13
合計	11,575	10,157	11,953	14,212	11,235	10,061

## (4) 相談内容別件数 (障害別)

相談内容 (延件数)

単位: 件

項目	件数								
	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
在宅サービス	32	3	233	169	6	16	1	1	451
施設入所	6	0	9	0	0	1	0	0	16
日中活動	5	11	184	72	113	3	8	16	412
就労	142	0	685	1,083	275	12	0	92	2,289
医療	47	12	239	547	36	2	0	11	894
不安の解消	17	0	228	465	43	14	0	56	823
保育・教育	0	0	95	11	83	0	0	5	194
年金・保険	6	0	58	70	5	4	0	2	145
人権擁護	1	0	42	30	0	0	0	10	83
財産	15	0	71	51	8	9	0	0	154
社参・余暇	3	0	98	52	15	1	0	4	173
介護・住宅	12	0	25	8	0	0	2	0	47
諸制度	78	2	230	263	72	9	5	6	665
家族・人間関係	8	2	69	163	29	0	0	25	296
連絡調整	137	21	535	966	220	22	22	129	2,052
生活保護	6	0	21	46	0	0	0	47	120
手話・要約	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	20	0	131	153	6	2	2	10	324
計画相談	119	44	357	330	61	1	7	3	922
合計	655	95	3,300	4,479	972	96	47	417	10,061

## 2 地域ネットワーク及び啓発事業について

## (1) 地域ネットワーク構築

## ①加西市内におけるネットワーク

## i) 加西市障害者自立支援協議会

実施年月日	検討内容
R4.5.24	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトの報告等、オブザーバーからの情報提供、今年度の取り組み。

実施年月日	検討内容
R4. 10. 11	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトの活動報告、オブザーバーからの情報提供、全体会議について。
R5. 2. 3	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクト等の活動報告、その他情報交換、全体会議について。
R5. 3. 18	【全体会議】 令和4年度加西市障害者自立支援協議会の取り組み等報告・トークショー・グループワーク

ii) 相談支援連絡会

実施年月日	内容
R4. 4. 27	今年度の取り組み内容の確認、その他意見交換や情報交換など。
R4. 5. 18	勉強会『障害福祉制度について』、相談支援体制整備について、その他情報交換など。
R4. 6. 15	相談支援体制整備について、セルフプランの現状について、その他情報交換など。
R4. 7. 20	勉強会『自立支援協議会について』、相談支援体制整備について、その他情報交換など。
R4. 8. 17	相談支援体制整備に向けた実態調査について、その他情報交換など。
R4. 9. 21	相談支援体制整備に向けたヒアリング結果について、自立支援協議会運営会議についてなど。
R4. 10. 19	勉強会『計画相談支援について』、自立支援協議会運営会議の報告、その他情報交換など。
R4. 12. 21	保育所等訪問支援について、相談支援体制整備の進捗状況、その他情報交換など。
R5. 1. 18	相談支援体制整備の進捗状況、自立支援協議会運営会議について、その他情報交換など。
R5. 2. 15	介護保険への移行に関する共有、自立支援協議会全体会議について、その他情報交換など。
R5. 3. 15	セルフプランの現状について、地域生活支援拠点整備について、その他情報交換など。

iii) 高齢・障がい者支援連絡会

実施年月日	内容
R4. 5. 20	連絡会の主旨や目的の確認。各担当課からのケース報告・連絡等。勉強会について。
R4. 7. 15	前回報告ケースの課題整理、障害福祉サービスから介護保険への移行について、研修会について。
R4. 9. 16	チェックシート活用にてケースの課題整理。研修会打合せ。自立支援協議会運営会議について。
R4. 11. 17	加西市地域包括支援センター共催研修会実施。
R5. 1. 20	研修会の振り返り。自立支援協議会運営会議について。介護保険への移行に関する共有。
R5. 2. 10	今年度の振り返りと来年度活動内容の検討。自立支援協議会全体会議について。

## iv) あんしん暮らし支援連絡会

実施年月日	内容
R4. 5. 19	地域生活支援拠点の整備(人材育成に向けた取り組み)について。その他、情報交換など。
R4. 7. 20	地域生活支援拠点の整備(人材育成に向けた取り組み)について。その他、情報交換など。
R4. 9. 21	地域生活支援拠点の整備(緊急時対応、人材育成)について。その他、情報交換など。
R5. 1. 18	地域生活支援拠点の整備(緊急時対応、人材育成)について。新規 GH 視察報告など。
R5. 2. 10	勉強会(“地域での自閉症支援者の人材育成を考える” 動画視聴、グループワーク)
R5. 2. 22	勉強会振り返り。自立支援協議会全体会議について。その他、情報交換など。

## v) 就労支援連絡会

実施年月日	内容
R4. 4. 20	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 6. 15	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 7. 13	今年度の活動について(就労支援事業所パンフレットの作製など)。その他、情報交換など。
R4. 8. 17	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 9. 29	就労支援事業所パンフレットについて。加西特別支援学校卒業生の実態調査についてなど。
R4. 10. 19	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 12. 21	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R5. 1. 23	就労支援事業所パンフレット作製、加西特別支援学校卒業生の実態調査の進捗確認など。
R5. 2. 15	【勉強会】就労支援についての意見交換。

## vi) 子ども支援連絡会

実施年月日	内容
R4. 5. 16	役割等の確認。近況報告と情報共有。加西市の子ども支援に関する課題について。
R4. 7. 22	新規事業所紹介(放デイ、保育所等訪問支援事業)。近況報告と情報共有。
R4. 9. 22	新規事業所紹介(保育所等訪問支援事業)。福祉サービス一覧について。近況報告と情報共有。
R4. 11. 11	福祉サービス一覧について。放課後等デイサービス整備状況について。近況報告と情報共有。
R5. 1. 20	新規事業所説明(保育所等訪問新事業)。福祉サービス一覧について。その他、意見交換など。

vii) すまいるリンクネットワーク連絡会

実施年月日	内容
R4. 4. 14	各担当課からのケース報告・情報共有。自立支援協議会全体会議の報告。
R4. 5. 12	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 6. 10	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 7. 15	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 8. 19	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 10. 20	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 11. 21	各担当課からのケース報告・情報共有（いじめや不登校の現状）など。
R4. 12. 19	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R5. 1. 16	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R5. 2. 10	各担当課からのケース報告・情報共有など。

viii) 加西市中高連携支援連絡会

実施年月日	内容
R4. 10. 25	各校の現状について。現状の課題について意見交換、情報交換。

ix) 加西市障害者就業・生活支援ネットワーク会議

実施年月日	検討内容
R4. 12. 13	加西特別支援学校生徒による報告実習報告。グループ別ワークショップ。グループ発表・意見交換。

x) 加西市特別支援教育コーディネーター・ネットワーク会議

実施年月日	検討内容
R5. 3. 6	関係機関との連携について、入学・転校時の引継ぎについて。

xi) みんなの福祉フェスタ実行委員会 ※コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。

②北播磨圏域におけるネットワーク

i) 北播磨障がい福祉ネットワーク会議 相談支援部会

実施年月日	検討内容
R4. 4. 26	今年度の事業内容の確認。医ケア児支援部会について。
R4. 6. 21	各事業所近況報告。医ケア児支援部会について。学習会『障害者虐待について』
R4. 10. 11	各事業所近況報告。医ケア児支援部会について。学習会『高齢障害者支援について』
R4. 12. 13	市町部会合同開催。医療的ケア児支援部会アンケート結果について。その他、情報交換など。
R5. 3. 7	各事業所近況報告。地域生活支援拠点事業進捗報告。来年度の活動についてなど。

ii) 就労支援部会

実施年月日	検討内容
R4. 6. 28	労働行政の状況。支援機関の情報交換、制度の情報提供。就労系アセスメントについて等。
R5. 1. 31	労働行政の状況。職場定着支援について。就労相談の多様化への対応についてなど。

iii) 発達支援部会

実施年月日	検討内容
R4. 9. 9	実践発表「トライアングルプロジェクト」について、教育機関及び相談機関より実践報告グループ討議「トライアングルプロジェクトの現状と課題について」

iv) 医療的ケア児支援部会（及びワーキングチーム連絡会）

実施年月日	検討内容
R4. 8. 8	兵庫県医療的ケア児支援センターについて。研修開催について。アンケートの進捗状況など。
R4. 11. 28	ワーキングチーム連絡会。アンケート集計結果の確認及び集計結果の分析による課題抽出など。
R4. 12. 17	研修会。医療的ケア児支援センターの役割と実績。グループワーク。
R5. 3. 6	アンケート集計結果の報告及びアンケート結果から分析した地域課題等についてなど。

v) 全体会議 ※書面開催のみ

(2) 啓発事業

① 社会参加支援事業の実施

実施年月日	事業名	内容	対象	参加者
R4. 5. 15	余暇活動	もしもに備える防災ご飯～防災ランチを作ろう～	就職者	9人
R4. 7. 30	余暇活動	出かけて観よう～映画鑑賞会～	就職者	12人
R4. 8. 16	余暇活動	実習生と楽しもう～レクリエーション大会～	就職者	8人
R4. 11. 19	余暇活動	日帰り旅行～素敵な景色と温泉でリフレッシュ～	就職者	14人
R5. 2. 18	余暇活動	みんなでレッツ懐ゲーム	就職者	10人

②イオンイベント ※コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止。

③講演会等

実施年月日	研修名	内容	対象	参加者
R4. 5. 23	希望の郷 職員研修	コミュニケーションについて	施設職員	30人
R4. 7. 8	加西特別支援学校進路説明会	年金制度について	保護者	50人
R4. 11. 16	レインボー家族会	引きこもり支援について	家族、支援者	約25人
R5. 2. 17	加西特別支援学校高等部校外学習	やすらぎについて	高等部生徒、教員	25人

## 令和4年度 はんど（指定特定相談支援事業所はんど） 事業報告書

### 1. 全体状況

昨年に引き続き、感染対策を取りながら相談支援事業を継続してきた。昨年度と比較すると、ほぼ対面で相談対応をおこなうことができたが、施設入所関係については、対面での相談を控えたいとの申し出を受けることもあり、必要に応じて電話対応や郵送対応など、工夫しながら業務を行ってきた。

また、事業所訪問においては、昨年同様、入所施設では訪問に制限がある場合もあり、直接利用者の状況を確認しづらい状況は引き続きあった。

ケースの終結や他事業所への移行に伴い、各担当がもっているケースの整理をおこなうとともに、新規ケースを受ける体制を整え、少しずつだが新規ケースを受けたり、セルフプラン者に計画を作成したり、モニタリング回数を毎月に変更するなどし、対応した。

### 2. 重点目標に対する取り組み

#### (1) 計画相談支援・障害児相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	54	49	56	54	45	51	60	38	45	51	39	65
延件数	132	137	125	117	90	116	161	92	114	168	106	171

※サービス提供時モニタリング・集中支援加算等も含む

- ・新規 9件（再開を含む）
- ・終結 10件（本人の死去・他事業所へ引継ぎ・更新なし等による）

#### (2) 基本相談支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実人数	83	77	78	85	78	79	91	74	74	74	67	64
延件数	432	434	497	461	519	465	496	341	348	386	333	307

#### (3) 本人中心支援・多機関連携

個別の状況を勘案し、標準期間一律ではなく、必要に応じたモニタリング期間を設定し、支援の質の向上に努めた。

サービス利用支援だけでなく、継続サービス利用支援においても、本人を中心としたサービス担当者会議を積極的に実施している。それ以外にも状況に応じて必要時、関係者会議を開催する等、多機関連携における調整機能を担っている。

計画作成以外の基本相談にも丁寧に対応している。基本相談の内容は、成年後見制度に関すること・年金に関すること・家計や金銭管理に関すること・生活状況の把握・不安の軽減・受診支援・家族支援・高齢障害家庭の支援・介護保険に関すること・要対協ケース・トライアングルプロジェクト・医療的ケア児等支援・諸制度に関すること等、多岐に渡っている。

#### (4) 相談支援機能の強化

担当者一人で抱え込むことを防ぎ、支援方針などを所内で確認しながらケースを対応できるよう、朝礼や所内会議等において共有、検討をおこなった。

また、8050 問題、要対協、トライアングルプロジェクトなど複合的な課題を有するケースも多く、基幹相談支援センターやすらぎと状況を共有しながら、必要に応じて連携を図り、問題や課題解決に向けて取り組んだ。ただ、支援困難ケースへのアセスメント、チームアプローチなどに関しては課題を感じており、職員一人ひとりがスキルアップできるよう研修などをおこなうことでさらに相談支援機能の強化に努めたい。

#### (4) 障害者地域自立支援協議会などへの参加

- ・各種連絡会や部会へ参加、協力した。

会議名	参加回数
加西市相談支援連絡会	11回
あんしん暮らし支援連絡会	4回
こども支援連絡会	5回
発達障害者支援部会	1回

#### (5) 人材育成・研修

- ・障害者地域自立支援協議会などが主催する研修会に参加

研修名	参加人数
加西市地域包括支援センター研修 (加西市高齢障害者支援連絡会共催)	3人
あんしん暮らし支援連絡会が主催する研修	2人
ひきこもり支援研修	2人
主任相談支援専門員研修	1人
全国相談支援ネットワーク研修	1人
北播磨ネットワーク会議 発達障害者支援部会研修	2人

#### (6) 自立生活援助事業

令和4年度は5名の方を対象に実施した。単身生活者については主に定期訪問にて生活状況を確認し、必要に応じて同行支援を行った。課題に対しては本人の考えを確認しながら一緒に解決策を相談し、本人自身で解決する力、生活する力を身に付けていくことができるよう支援してきた。家族と同居の利用者に対しては、家族のしんどさや家族本人の将来の不安を丁寧に確認しながら、在宅生活を継続していくために本人ができることを増やしていけるよう、本人のペースに寄り添いながら支援を行ってきた。

計画相談支援のみでは支援が行き届きにくいような課題に対して、細やかに思いに寄り添った支援を提供できることがこの事業の強みと考えており、計画相談支援と一緒にサービス提供することで、包括的な支援が行えたと考える。

個別支援計画に基づき、目標達成度を振り返りながら支援を継続していくことで、しっかりとできる

ことを積み重ねることができており、モニタリングの結果、利用者にとっても満足度の高い支援を提供することができたと考えている。ただ、障害の特性上、有期限で支援目標を達成することが難しい面があり、4名については支援継続の必要性を感じている。本人からも支援継続の希望があり、市地域福祉課とも協議し、延長の申請を行い、来年度も更新、継続となった。1名については、今年度で支援目標達成し、3月末で終了となった。

# 令和4年度 ひょうご発達障害者支援センター加西ブランチ

## (担当圏域：北播磨、丹波) 事業報告

### 1. 重点的取り組みに対する総括

#### (1) 各市町における「トライアングル」プロジェクトの取り組みの検討

加西ブランチが事務局を担当する、北播磨障がい福祉ネットワーク会議発達障害支援部会において、「トライアングル・プロジェクト」をテーマに開催した。前半の実践発表では、小野市教育委員会および市立特別支援学校、加西市教育委員会、北播磨障害者圏域コーディネーターの4機関から取り組み状況について発表していただいた。小野市では、特別支援学校を中心とした「トライアングル・プロジェクト」を県のモデル地域として推進しており、現在は地域の小学校でも取り組みが広がりつつあることが報告された。加西市からは、地域の小学校での実践が発表され、市教育委員会と基幹相談支援センターやすらぎという教育と福祉が連携した好事例が報告された。

後半の市町別の協議では、「個別的な情報共有に留まり、点と点での関わりとなることが多く、市町のシステムとして取り組めていない」という声が多くあがった。指導助言をいただいた関西国際大学の中尾繁樹教授からは、各関係機関が「トライアングル・プロジェクト」の目的の共有すること、子どものQOLを高めるための教育・福祉の連携した支援計画や連絡票の作成していくこと、アセスメントや子どもに応じたプログラムを作成すること、などの支援者の支援技術の向上が課題であると指摘された。

教育と福祉の連携の必要性については、これまでも様々な形で問われてきたが、現実的には、まだまだ壁を感じることも多い。今回取り上げた「トライアングル・プロジェクト」の推進は、その隔たりを埋める突破口の一つになる可能性があるため今後も、地域の支援体制の整備にむけ各市町の協議会等で助言を続けたい。

#### (2) ひきこもり支援におけるアウトリーチ手法と連携に関する検討

加西ブランチでは、これまでクローバーCRAFTプログラムを平成27年度、令和元年度、令和3年度と計3回実施してきた。介入したケースの現在の支援状況を再整理し、本人相談につながりにくいケースに対するアウトリーチ手法や関係機関との連携方法について検討した。その結果、CRAFTを受講した家族のなかで、25名中17名(68%)が本人相談につながり、そのうち7名については、ひきこもり状態から脱却し、新たな所属先を見つけていた。約7割に対してプログラムの顕著な効果が見られたが、これは国内外の実践研究の成果と同等であり、エビデンスが担保されていることが確認された。本人相談につながった経緯としては、家族がCRAFTで学んだ関わりを家庭内で継続することで、本人との関係性が徐々に改善し、本人の訴えをタイミングよく把握し、相談機関につながるというケースが多かった。また、このような取組みにより家族の心理的ストレスの低下にもつながっていることが確認された。一方で、8名(32%)については現在も本人相談につながっていないが、そのうち3名に関しては、就労等で新たな所属先を見つけしており、直接相談にはつながっていないもののCRAFTの効果が発揮され、ひきこもり状態から脱却している。

そのため、CRAFT受講した25名のうち5名が本人相談につながらず、また支援状況も膠着しやすい状況にあることが確認された。この5名について個々のケースを分析すると、膠着の要因として、過去に起こった本人の行動問題への再燃不安が強いケースや、本人の無反応が家庭内で続き、その不変さから家族の諦観が強く、家族から本人へのアプローチが再度消極的に戻ってしまうケースが確認された。そのため膠着しやすいケースへの対応としては、家族のメンタル面や家族自身の相談継続の動機づけを維持するためのアプローチも必要であると考えられる。

また、ひきこもり支援では、長期的な介入になることが多く、そのため一機関で対応することには限界があり、支援のフェイズごとに関係機関とどのように協働するかが重要になる。近年は、機関連携型CRAFTとして健康福祉事務所や基幹相談支援センター等と連携しながら実施しており、その連携面での効果も高い。特にアウトリーチ支援の際には、関係機関と役割を分担しながら対応しており、本人相談につながるケースもある。

地域課題として残るのは、本人が既存の福祉サービスを望まない場合が多く、その場合は本人相談を継続する形になる。今後は居場所支援などとの連携も課題としてあげられる。

## 2. 事業実施状況

### (1) 普及啓発・研修

- ① 研修：実施回数（実3回 延5回 参加者数139人）
- ② 講師派遣：実施回数（延17件 延参加人数662人）

### (2) 機関コンサルテーション

- ① 関係機関へのコンサルテーション：実施回数（実9カ所 延36件）
  - ・ 職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。
- ② クローバー ペアレント・トレーニング：実施回数（実5カ所 延29件）
  - ・ 講座実施に当たり、保健師等のスタッフへの技術付与を訪問により実施。

### (3) 相談支援

- ① 相談支援（実173人 延918件）
- ② 発達支援（実7人 延8件）
- ③ 就労支援（実10人 延37件）

### (4) 機関連携

- ① 発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席（延21件）
- ② 個別調整会議（延71件）

### (5) 調査・研究

令和4～5年度にかけ「自立訓練事業における青年期の自己理解支援プログラムの効果の検討」では、卒業生の記録を用い、効果の検討を進めている。また、「加配保育士のメンタルヘルス予防および効果的なサポート体制の検討」では、市町の所管課に依頼をし、加配保育士へのアンケート調査の実施を予定している。

## 令和4年度 障害者等相談支援コーディネーター事業 事業実績報告書

### 1. 全体状況

令和4年度は、圏域内における課題を市町と相談支援でより深く共有、検討できる場を作るとともに、整理された課題を県民局担当部局と共有し、さらに協議できる場の設置に取り組んだ。また、地域の人材育成として、相談支援のみならず、福祉・教育、医療関係者を対象に虐待や高齢障害者支援、トライアングルプロジェクトなどのテーマについて研修や学習会を多数おこなった。今後も相談支援体制の整備や圏域内に必要な資源の構築のため、さらにネットワークを発展させていき、課題のままにせず、1つでも多くの問題を解決できる仕組みを作っていく。

### 2. 重点目標に対する取り組み

#### (1) 助言・指導

区 分		助言・指導の区分				合 計
		相談支援体制等の構築・運営に必要な助言・指導	相談支援ケースへの対応等に必要な助言・指導	その他	左記のうち医療的ケア児関係	
相談関係	①指定相談支援事業所従事者	38	12	6	0	56
	②市町職員 (障害福祉担当課に限る)	76 (20)	11	208 (28)	48	295
	③上記以外の相談支援関係者 (例：障害者相談員、民生委員等)	185 (20)	53	398 (13)	33	636
	④保健・福祉関係者（市町職員含む）	97 (16)	34	75	16	206
	⑤教育関係者（市町職員含む）	30	17	16	0	6
	⑥労働関係者 (ハローワーク等行政関係者)	1	0	0	0	1
	⑦企業等	14	0	15	0	29
	⑧障害福祉サービス事業者等	45 (3)	44	126 (5)	8	215
	⑨その他	12	1	23	0	36
	⑩障害者本人	2	30	75	0	107
	⑪障害者の家族等	2	37	62	0	101
合 計		502	239	1,004	105	1,745

#### (2) 研修事業

《別紙参照》

### (3) 相談支援体制の構築

#### ①相談支援体制等の構築・充実に向けた取組

##### ■相談支援体制について

圏域内5市1町基幹相談支援センター（3市：三木市、西脇市、加西市）、委託障害者相談支援事業所（多可町、小野市、加東市、西脇市）による相談支援部会を年5回実施。内、1回は今年度初の試みとなった「市町・相談支援合同部会」を実施。

内容としては、圏域内の指定特定相談支援事業所の把握と事業所一覧の作成（今後、年1回程度情報更新）や遅滞なく計画作成を実施できているか、またはセルフプラン率がどの程度の割合となっているかを確認するなど相談支援体制について協議した。また、地域生活支援拠点や市町医療的ケア児コーディネーターの配置、相談支援体制の整備などについて市町・相談支援合同部会にて協議し、課題解決に向けた具体的な取り組みの推進をおこなった。

人材育成としては、別紙研修事業報告のとおり研修を実施するとともに、各市町で実施している相談支援部会などへ参加し、高齢障害者支援やトライアングルプロジェクトにおける多職種連携や虐待防止の視点を持ち、本人の人権や権利など本人を中心とした支援のあり方について発信した。

##### ■北播磨ネットワーク会議の組織体制について

今年度は、「圏域課題共有関係者会議」を新たに実施し、県民局企画課、地域保健課とネットワーク会議事務局担当市町及び圏域Coで圏域における課題の共有と今後の取り組みについて協議した。今後、ネットワーク会議の組織体制に圏域課題共有関係者会議を位置づけ、これまで課題だった市町のみで圏域の課題を検討していた状況から県の担当者も参画した形で検討できる仕組みに変更していく予定。

#### ②医療的ケア児等に対する支援体制の構築・充実に向けた取組

■医療的ケア児等の当事者、家族を対象にアンケート調査を実施。医療的ケア児等支援ワーキングチームでアンケート調査結果の分析をおこない、医療的ケア児等を取りまく課題の整理をおこなった。

■医療的ケア児等の支援や理解の普及及びネットワークをより広げることを目的に研修会を開催。今年度は特に訪問看護（医療関係者）へ参加を呼びかけ、グループワークを通じて課題の共有と顔の見える関係づくりをおこなった。

■北播磨障がい福祉ネットワーク会議（市町・相談支援合同部会）を開催し、市町医療的ケア児等コーディネーターの配置における各市町の課題について共有し、配置していくために必要なことについて意見交換をおこなった。

令和4年度 圏域 Co 研修事業報告

(別紙)

開催日時	開催場所	内容・テーマ	対象者	参加者数 (人)
5/26	三木市役所	「高齢障害者支援について」	相談支援従事者	10
5/28	加西市健康福祉会館	「障害者虐待防止について」	相談支援従事者	11
6/2	小野市役所	「障害者虐待の体制整備」	行政、福祉従事者、相談支援従事者等	12
6/16	西脇市健康福祉連携施設	「障害児学童保育及び放デイの在り方について」	行政、相談支援従事者等	14
6/21	小野市役所	「障害者虐待防止について」	相談支援従事者等	13
7/4	小野市立図書館	「障害者虐待の体制整備」	行政、教育、福祉従事者、相談支援等	21
7/12～15	福祉のまちづくり研究所	「相談支援従事者現任者研修①」	相談支援従事者	75
7/20	加西市役所	「自立支援協議会について」	行政、相談支援従事者等	13
7/26	小野市立図書館	「障害者虐待の体制整備」	行政、福祉従事者、相談支援従事者等	20
7/26	小野起生園	「障害者支援施設における障害者虐待防止等について」	福祉従事者等	20
7/28	小野市役所	「障害者虐待防止について」	行政、相談支援従事者等	11
8/2～5	オンライン	「相談支援従事者現任者研修②」	相談支援従事者	75
8/26	兵庫県立先端科学技術C	「介助中における障害者虐待防止等について」	従業員	50
9/5	小野市立ひまわり園	「障害者支援施設における障害者虐待防止等について」	福祉従事者等	15
9/9	三木市教育センター	「トライアイアンプロジェクトについて」	行政、教育、相談支援従事者等	60
9/12	加西市民会館	「ひきこもり研修：グループワーク」	行政、教育、福祉従事者、高齢、相談	60
9/29	三木市役所	「トライアイアンプロジェクト」	相談支援従事者	10
10/5	小野福祉工場	「障害者支援施設における障害者虐待防止等について」	福祉従事者等	20

開催日時	開催場所	内容・テーマ	対象者	参加者数 (人)
10/11	小野市役所	「高齢障害者支援について」	相談支援従事者	12
10/27～28	オンライン	「相談支援従事者初任者研修演習講師」	相談支援従事者	60
10/29	西脇市立日野小学校	「あなた」と「わたし」がつながる時 ～「また会いたい」関係を作るために～	小学生、保護者、教員等	130
11/16	小野市総合福祉センター	「障害者虐待防止について」	行政、福祉従事者、相談支援従事者	36
11/29	小野市役所	「高齢障害者支援について」	行政、相談支援従事者等	13
12/2	加西市立特別支援学校	「ここは知ったク・福祉制度のポイント」	幼保小中高教育関係等	43
12/8	芦屋市立潮芦交流C	「障害者虐待防止等について」	従業員	53
12/13	高砂市役所（オンライン）	「トライアングルプロジェクトについて」	行政、教育、福祉従事者、相談支援	20
12/17	小野市役所	「医療的ケア児等支援について：グループワーク」	行政、医療機関、福祉従事者、相談支援従事者等	34
12/20	丹波篠山市役所	「1部 高齢障害者支援について/2部 障害年金について」	行政、相談支援従事者	13
1/23	小野市立ひまわり園	「障害者虐待防止：身体拘束について」	福祉従事者等	15
2/3	加東健康福祉事務所	「障害者虐待防止：グループワーク」	行政、相談支援従事者等	38
2/7～9	オンライン	「相談支援従事者現任者研修」	相談支援従事者	70
3/16	西脇市健康福祉連携施設	「高齢障害者支援について」	行政、相談支援従事者	13
合計				1,060

令和4年度 加西市基幹相談支援センターやすらぎ 事業報告資料  
(生活困窮者就労準備支援等事業及び生活保護適正化等事業)

1. 生活困窮者就労準備支援等事業及び生活保護適正化等事業

(1) 相談件数の推移

令和2年度から契約内容の変更があり対象者の選定を行った。月25件の対応をすることになっている。相談件数の変化は、それに伴うものと思われる。

相談件数について (延件数)

単位：件

項目	件数					
	H29	H30	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
件数	914	1,689	1,837	696	652	941

(2) 相談実人数の内訳

実人数 (新規・継続) について

単位：人

項目	実人数	身体障害	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他
新規	11	1	0	0	0	0	0	0	10
継続	85	6	0	7	19	2	0	1	53
合計	96	7	0	7	19	2	0	1	64

(3) 相談方法別件数の推移

相談方法 (延件数)

単位：件

項目	件数					
	H29 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
訪問	229	366	541	219	182	235
来所相談	48	142	98	52	44	53
同行	36	50	67	24	56	92
電話相談	241	426	719	124	59	95
電子メール	201	411	136	35	5	73
FAX	0	4	6	0	0	7
個別支援会議	10	14	15	13	4	17
関係機関	134	259	238	227	302	369
その他	15	17	17	2	0	0
合計	914	1,689	1,837	696	652	941

(4) 相談内容別件数（障害別）

相談内容（延件数）

単位：件

項目	件数								合計
	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	
在宅サービス	0	0	2	0	0	0	0	0	2
施設入所	0	0	0	1	0	0	0	0	1
日中活動	0	0	0	3	0	0	0	7	10
就労	3	0	54	27	2	0	0	10	96
医療	0	0	3	9	0	0	0	29	41
不安の解消	0	0	2	24	0	0	0	4	30
保育・教育	0	0	0	0	0	0	0	3	3
年金・保険	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人権擁護	0	0	0	13	0	0	0	0	13
財産	0	0	2	2	0	0	0	2	6
社参・余暇	0	0	77	50	11	0	0	138	276
介護・住宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸制度	0	0	3	9	0	0	0	4	16
家族・人間関係	0	0	6	23	0	0	0	11	50
連絡調整	5	0	34	63	2	0	0	98	202
生活保護	12	0	5	27	0	0	6	122	172
手話・要約	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	3	14	0	0	0	1	18
計画相談	0	0	15	0	0	0	0	0	15
合計	20	0	206	265	15	0	6	429	941

(5) 地域ネットワーク構築

①加西市内におけるネットワーク

i) 加西市障害者自立支援協議会

実施年月日	検討内容
R4.5.24	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトの報告等、オブザーバーからの情報提供、今年度の取り組み。
R4.10.11	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトの活動報告、オブザーバーからの情報提供、全体会議について。
R5.2.3	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクト等の活動報告、その他情報交換、全体会議について。
R5.3.18	【全体会議】 ・令和4年度加西市障害者自立支援協議会の取り組み等報告・トークショー・グループワーク

ii) すまいるリンクネットワーク連絡会

実施年月日	内容
R4. 4. 14	各担当課からのケース報告・情報共有。自立支援協議会全体会議の報告。
R4. 5. 12	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 6. 10	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 7. 15	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 8. 19	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 10. 20	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R4. 11. 21	各担当課からのケース報告・情報共有（いじめや不登校の現状）など。
R4. 12. 19	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R5. 1. 16	各担当課からのケース報告・情報共有など。
R5. 2. 10	各担当課からのケース報告・情報共有など。

iii) 就労支援連絡会

実施年月日	内容
R4. 4. 20	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 6. 15	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 7. 13	今年度の活動について(就労支援事業所パンフレットの作製など)。その他、情報交換など。
R4. 8. 17	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 9. 29	就労支援事業所パンフレットについて。加西特別支援学校卒業生の実態調査についてなど。
R4. 10. 19	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R4. 12. 21	【勉強会】就労支援についての意見交換。
R5. 1. 23	就労支援事業所パンフレット作製、加西特別支援学校卒業生の実態調査の進捗確認など。
R5. 2. 15	【勉強会】就労支援についての意見交換。

②北播磨圏域におけるネットワーク

i) 発達支援部会

実施年月日	検討内容
R4. 9. 9	実践発表「トライアングルプロジェクト」について、教育機関及び相談機関より実践報告 グループ討議「トライアングルプロジェクトの現状と課題について」

③研修講師

実施年月日	研修名	内容	対象	参加者
R4. 11. 16	レインボー家族会	引きこもり支援について	家族、支援者	25人

部署名：介護保険部

①地域貢献の視点			
重点課題	地域との協働事業の推進	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーター                             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶長引くコロナ対策で休止する地域行事が多く、参加や継続支援を行うことが困難であった。機会があれば各地区のサロンやカフェ、地域行事等に参加した。</li> <li>▶カフェや体操グループの立ち上げ、継続支援を行う。</li> </ul>                             既存のカフェや体操グループへの参加はできた。新グループの立ち上げ等は行政がバックアップしているので活動の中心にはないが、立ち上がったあとの見守りや継続のための意見交換等には参加できた。                         </li> <li>・ふるさと創造会議の常任理事を継続し、ハーブ園の運営や行事等の企画を行った。地域の行事に、どっこいしょの利用者の参加の機会を設けることで、後期高齢者の活動の場を創出し、高齢化の課題を地域住民と共に考える機会とすることを目的としているが、長期にわたるコロナ対策で外出の機会や参加の機会が減少した高齢者・後期高齢者において、フレイルの深刻化が問題となっている。また、地域の活性化の中心は人口増対策が第一義にあり、高齢化の問題は顕在化していない状況の中、どっこいしょとして共同事業に取り組むことが難しい状況であった。</li> <li>・どっこいしょと、下若井町で協働設置している絆カフェは月1回の実施ができたが、どっこいしょの利用者の参加は少なく、町内でも参加者が固定され減少する傾向にあった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層・どっこいしょともに、地域に出ていくことから再スタートする。第2層はアウトリーチすることで、既存の地域活動の再会や立ち上げに協力することを活動の基盤としていく。どっこいしょは、後期高齢者が元気に地域に参加できる機会を増やしていくことで、協同事業の再構築を試みる。</li> </ul>		
重点課題	認知症カフェ実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下若井町とどっこいしょの協働運営の絆カフェは、毎月第4週の水曜日に実施。町の参加者は元気な女性が多く、絆カフェのターゲットになる人の利用はほぼない。どっこいしょの利用者の参加も少ない状況である。</li> <li>・北条地区の絆カフェは、認知症や高齢者の利用は少なく、障害のある方の利用が多い。色々な人が交流する場として機能している。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェの実施目的や運営について主催者と話し合いながら、地域の中で生きづらさのある方の参加の場として機能するように実施する。</li> </ul>		
重点課題	地域密着型サービス事業所連携	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の補助金申請をし、研修会を企画。感染症対策の研修は加西市民病院のコロナ専門看護師より感染予防についての研修を企画した。7事業所の職員が受講した。</li> <li>・介護現場のリーダー向けの研修を企画したが、実施予定の月に、各事業所でコロナ感染者の発生や、濃厚接触者が大量に発生し、研修を実施しても参加できる事業所がなく、中止になった。</li> <li>・実地指導、運営指導で受けた指摘事項の共有、対策を話し合った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所合同の研修会や人材確保のための活動を再開する。</li> </ul>		

重点課題	認知症等啓発活動	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民向けの認知症理解のための講座の開催を社会福祉協議会、行政に協力して実施した。認知症の状態を引き起こす病気の理解は、講座だけでは難しいのだが、1時間程度の認知症に関する講座が多くあり、一部認知症への誤解や偏見にもつながっている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の現状を鑑みて、認知症の理解に関して必要な活動を、社会福祉協議会や行政と話し合う。また、認知症に特化することなく、介護の社会化や後期高齢者の地域生活継続を可能にするために必要な啓発活動を行っていく。</li> </ul>		

②財務の視点																																																			
重点課題	予防から看取りまで利用	事業判定	継続																																																
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気に生きて、老衰や加齢に伴う持病の悪化により人生の最終段階を迎える人の安らかな死を支えることを目標に、職員に研修を実施したり、連泊の体制を整えたりしている。令和4年度は突然の病変による逝去はあったが、看取りとして事業所で最期の時間を過ごす方はいなかった。予防から長期利用し、後期高齢化、身体機能・認知機能の低下をきたしている利用者が増えている。また、令和4年度は新規で予防の利用の方が数名あったが、事業所内に身体機能・認知機能の低下した状態の利用者や療養している利用者があり、活発な日中活動を提供することができず、受給サービスの変更を希望する人が2名あった。</li> </ul>																																																		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>看取り体制の充実とともに、予防の人が機能維持や回復で充実した日中の過ごし方ができるよう、日中活動の充実に取り組む。</li> </ul>																																																		
重点課題	退院後の利用促進	事業判定	継続																																																
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度は退院後に入所施設等への住み替えはなかった。</li> </ul>																																																		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>持病の悪化や骨折等での入院後、特別養護老人ホーム等への住み替えではなく、どこいしょを利用できるよう、利用者・家族との関係づくり、事業所の体制整備を継続して実施する。</li> </ul>																																																		
重点課題	新規利用者確保	事業判定	継続																																																
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度新規利用者実績</li> </ul> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規利用者数</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>86.2</td> <td>93.1</td> <td>96.6</td> <td>100</td> <td>93.1</td> <td>89.7</td> <td>93.1</td> <td>93.1</td> <td>96.6</td> <td>96.6</td> <td>79.3</td> <td>93.1</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>亡くなった方、サービス変更による利用解除等あったが、稼働率は維持できた。</li> </ul>													4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	新規利用者数		1		2			1		2			2	稼働率(%)	86.2	93.1	96.6	100	93.1	89.7	93.1	93.1	96.6	96.6	79.3	93.1
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																							
新規利用者数		1		2			1		2			2																																							
稼働率(%)	86.2	93.1	96.6	100	93.1	89.7	93.1	93.1	96.6	96.6	79.3	93.1																																							
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の地域密着型介護保険の事業所では、稼働率70%以下のところが多く、利用者確保が難しくなっている。管理者・相談員は関係機関との調整、第2層は在宅介護の推進、介護職はどこいしょでのサービスの充実を行い利用者には選ばれる事業所となる。</li> </ul>																																																		

③顧客の視点			
<b>重点課題</b>	<b>人生の最終段階の受け入れ</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・本人の意向については、プランに明記し、家族にも説明している。人生の最終段階をどっこいしょに連泊し、必要な医療が受けられる体制を整備している。		
<b>次年度に向けて</b>	・継続して関わっている利用者の状態変化等を見ながら、人生の最終段階を本人の意向にそえるよう体制、環境を常に整えておく。		
<b>重点課題</b>	<b>独居高齢者への夜間訪問</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・急激な身体機能の低下や病変、認知機能の低下等で、自宅でこれまでできていたことができなくなることが多い。本人も家族も急な変化を受け入れることができず、生活が困難になるのだが、就寝迄の訪問やどっこいしょで食事等を済まして自宅に戻ることによって混乱を最小限にし、在宅生活の継続が可能になるケースが多い。職員の時間外勤務、宿直等を組み合わせながら夜間、早朝の訪問を対応している。		
<b>次年度に向けて</b>	・時間外勤務ではなく、勤務時間で夜間訪問等ができるよう柔軟な人員配置と利用者支援のあり方を検討し、必要時の訪問ができる体制を整える。		
<b>重点課題</b>	<b>在宅医との連携強化</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・訪問診療、訪問看護が必要な利用者に対して訪問診療を実施している。また、歯科医の訪問診療も利用できる人が増えている。		
<b>次年度に向けて</b>	・訪問診療が必要な人が在宅診療を受診できるように体制整備を継続して実施していく。		
<b>重点課題</b>	<b>日中活動の充実</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・職員配置の問題や、コロナ対応で外出ができないことや、利用者の後期高齢化に伴い、日中充実した活動ができていなかった。利用者の意向を聴き、毎日の日通活動カレンダーを作り、配置された職員がサービス提供をできるようにした。		
<b>次年度に向けて</b>	・何もせずにテレビを見て過ごす日をなくし、通いで日中活動を提供することで、参加の場づくり、楽しみづくりをしていく。		
<b>重点課題</b>	<b>フレイル予防</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・新型コロナ感染拡大防止により外出の機会が極端に減ったことは後期高齢者の下肢機能維持には致命的な状況であり、足腰が弱まった利用者が多い。日中活動で体操等を導入しても、外出して歩行する運動量には満たない。結果、活動意欲の低下やフレイルにつながっている。庭の整備や、日中活動の充実等できることには取り組んだが、予防にはならなかった。		
<b>次年度に向けて</b>	・日中活動の中にフレイル予防を意識した活動を取り入れ、積極的に外出しながら活動意欲の増進に努める。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	個別ニーズに対応したサービス提供	事業判定	継続
実施状況	・個別に必要なサービス適用をおこなえている。運営指導により、サービス提供状況伝達会議を導入しているが、伝達時には状況も変わっていることも多く、伝達会議が機能しない。また、ライフサポートプランの見直しが間に合わず、個別の状況を後追いする形になり職員間で提供するサービスが必要最低限になっている状況もある。		
次年度に向けて	・ライフサポートプランの様式の見直し、会議での情報共有のあり方を再考していく。		
重点課題	人生の最終段階における意思決定支援	事業判定	継続
実施状況	・本人は在宅、どっこいしょで人生の最終段階を過ごしたいと希望していても、医療の問題や費用の問題で家族と意向が異なる時に、家族の意向が優先されてしまうことがある。令和4年度は1名が急変により入院後、本人も家族もどっこいしょで最期を迎えたいと希望したが退院できないケースがあった。		
次年度に向けて	・人生の最終段階の意思決定ができない構造的問題を把握しながら、本人の意向確認を丁寧に行う。後期高齢に伴う内臓機能の低下や、病気の進行についての理解も深め、病院に係るタイミングも本人と確認しながら、家族も含め合意形成していく。		
重点課題	退院後の受け入れ体制整備	事業判定	継続
実施状況	・退院時に連泊できる体制ができていたので、スムーズな在宅復帰ができた。		
次年度に向けて	・退院時の受け入れ態勢が整っていないと、病院から入所になるケースが多いので、日常的に宿泊機能の整備は行っておく。また、リハビリや在宅医療をスムーズに使えるよう連絡調整を行う。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	デスカンファレンスの実施	事業判定	継続
実施状況	・看取りであっても、急変の死であっても、利用者が亡くなった後のカンファレンスをし、亡くなった利用者へのケアを振り返り、今後のケアの質を高めるために必要なのだが、令和4年度は取り組めていない。		
次年度に向けて	・コアになる職員はACPの研修に参加し、デスカンファレンスを実施するための知識や技術を身に着ける。		
重点課題	OJTの実施	事業判定	継続
実施状況	・残務で17時30分以降に実施すると、参加できる職員が少数であり、中止したこともある。日中に実施すると参加職員は増えるが十分な時間が取れず短い時間でしか実施できない。令和4年度は主に日中に実施したが、数回しか参加しない職員がいた。		
次年度に向けて	・全員参加であることを周知しながら、職員の学ぶ意欲を引き出せるようなテーマ設定を行う。実施については、月2回同じテーマで日中に実施し、公休や夜勤の職員も参加できるように調整する。		

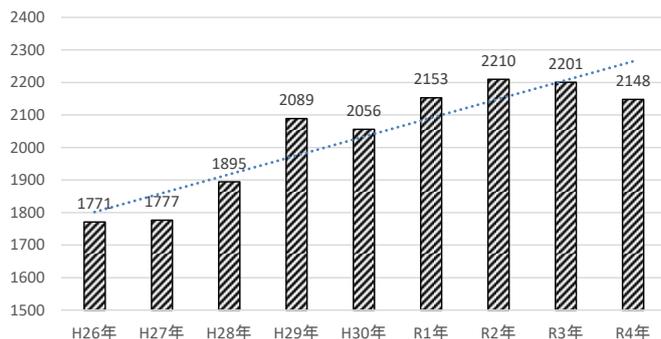
⑤学習と成長の視点			
重点課題	実習生の受け入れ	事業判定	継続
実施状況	・社会福祉士国家試験受験資格取得のための社会福祉援助技術現場実習の学生を3名受け入れた。		
次年度に向けて	・学習環境を整え、受講者が学びたいことが学べるように環境整備を行う。		
重点課題	事業所評価の実施	事業判定	継続
実施状況	・利用者、利用者家族にアンケートを実施し、職員全員が自己評価の項目にチェックをした。これらの結果を踏まえ、支援会議の時間で検証を行ったが、最終のまとめが年度中にできなかった。		
次年度に向けて	・早急にまとめを行い、業務の中で改善すべき点を可視化する。改善点に取り組みながら令和5年度の自己評価も実施していく。		

部署名：児童支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	他事業所と協力し、十分な受け入れキャパシティの確保	事業判定	継続
実施状況	・他事業所との情報共有に関しては、主に子ども支援連絡会の中で受け入れ状況等についておこなってきた。当事業所を利用されている方には積極的に他児童発達支援事業所のアナウンスを実施してきた。		
次年度に向けて	・令和5年度は、キャパシティに余裕があるため、パンフレットの刷新、講演会等外部へのアナウンスを積極的におこなう。		
重点課題	同法人他事業所の活用	事業判定	継続
実施状況	・令和4年度内に、なゆたの敷地内での交流と、玉丘史跡公園での交流をおこなった。なゆたの児童のみでなく、THREE-Pの利用者にとっても有意義な交流であったと感じる。		
次年度に向けて	・THREE-P管理者と連携し、令和5年度内にもコラボレーション企画を実施する。		
重点課題	当事業所のキャパシティの増強、ニーズへの応答	事業判定	継続
実施状況	・令和4年度は枠内全て契約が埋まっていた。保護者の療育利用ニーズに対して、振替療育とプラス療育によって対応をおこなってきた。		
次年度に向けて	・令和5年度は利用枠に余裕があったため、2回/週利用をアナウンスし、利用枠内は埋まっている状態。年度内に新規利用希望がある場合には随時受け入れていく（週2回利用する方には、新規利用希望があった際に枠を譲ることを伝えている）。		

②財務の視点														
重点課題	定員の維持							事業判定	継続					
実施状況	・50名（＋不定期利用1名）で年度内継続することができた。													
次年度に向けて	・令和5年度開始時は、週2回利用児童が10名弱いるため、年度内に新規利用希望があった際には、利用枠の譲渡等について保護者に相談していく。													
重点課題	利用割合の維持							事業判定	継続					
実施状況	・年度別延べ利用数													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	H26年	100	140	154	170	140	160	176	148	148	156	156	123	1771
	H27年	151	143	175	156	156	156	148	150	150	146	145	101	1777
	H28年	126	136	169	154	158	151	158	164	162	178	198	141	1895
	H29年	149	168	198	173	173	189	187	185	181	172	169	145	2089
	H30年	161	193	188	175	168	146	194	191	171	163	162	140	2056
	R1年	182	178	187	211	165	182	201	179	179	174	166	149	2153
	R2年	181	168	215	206	177	190	213	182	172	164	165	177	2210
	R3年	198	170	200	183	186	188	186	187	185	168	168	182	2201
R4年	185	180	203	187	176	174	173	175	183	172	166	174	2148	

年度別延べ利用数



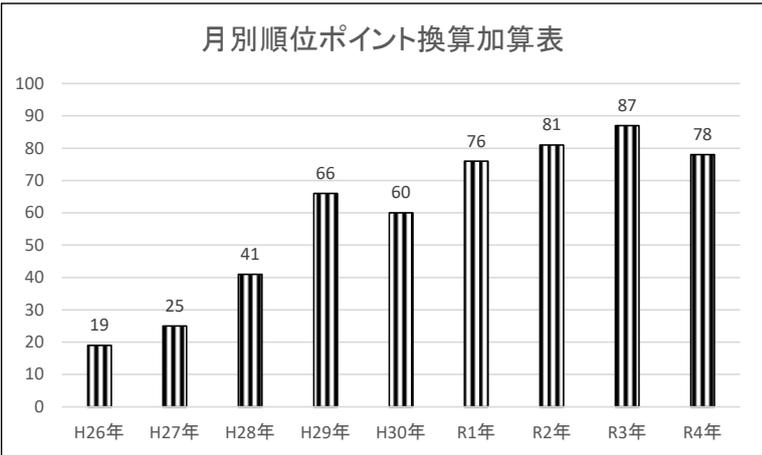
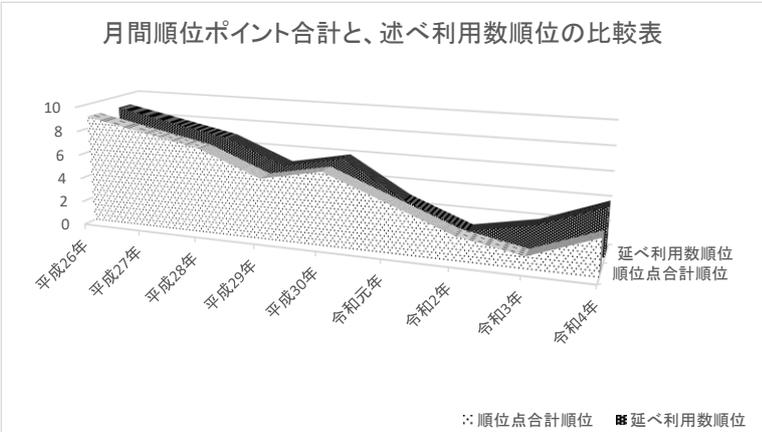
	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
開所減算30%	あり								
開所減算16%		あり							
開所減算無し(開所減算0%)									
児童指導員加配加算算定		あり							
児童指導員等配置加算(Ⅰ)算定									
児童指導員等配置加算(Ⅱ)算定									
専門的支援加算									
195単位									
209単位									
土曜日療育実施(28年10月~30年3月)									
土曜日療育停止									
定員数増									
定員数減									
振替療育開始									
支給決定内最大利用者									
個別サポート加算(Ⅰ)算定									
ベースアップ加算算定									

実施状況

・令和4年度の総開所日数 239 日 (キャパシティ 2,390 人/年) に対して 2,148 人の利用数 (89%) であった。令和3年度が 238 日に対して 2,201 人の利用数 (92%) であった事と比較すると利用割合がやや減少した。令和元年に振替療育を開始し、令和2年にプラス療育を開始した。事業所側からアクティブに利用数確保の動きとしてできるのは、現行の制度内ではこの令和2年度 (93%) が最大であると考えられる。今年度は 89% と 9 割利用に少し届かなかったため、次年度は 9 割利用を 1 つの基準とする。

月別利用数順位表

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
4 月	9 位	6 位	8 位	7 位	5 位	3 位	4 位	1 位	2 位
5 月	9 位	7 位	8 位	5 位 (同数)	1 位	3 位	5 位 (同数)	4 位	2 位
6 月	9 位	7 位	8 位	4 位	5 位	6 位	1 位	3 位	2 位
7 月	7 位	8 位	9 位	6 位	5 位	1 位	2 位	4 位	3 位
8 月	9 位	8 位	7 位	4 位	5 位	6 位	2 位	1 位	3 位
9 月	6 位	7 位	8 位	2 位	9 位	4 位	1 位	3 位	5 位
10 月	6 位	9 位	8 位	4 位	3 位	2 位	1 位	5 位	7 位
11 月	9 位	8 位	7 位	3 位	1 位	5 位	4 位	2 位	6 位
12 月	9 位	8 位	7 位	3 位	6 位	4 位	5 位	1 位	2 位
1 月	8 位	9 位	1 位	3 位 (同数)	7 位	2 位	6 位	5 位	3 位 (同数)
2 月	8 位	9 位	1 位	2 位	7 位	4 位 (同数)	6 位	3 位	4 位 (同数)
3 月	8 位	9 位	7 位	5 位	6 位	4 位	2 位	1 位	3 位

<b>実施状況</b>	 <p>月別順位ポイント換算加算表</p>
	<p>※1位を9ポイント、9位を1ポイントとして加算</p>  <p>月間順位ポイント合計と、述べ利用数順位の比較表</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度毎の月間順位ポイント合計と、年度毎の述べ利用数を比較した時に、近い推移を辿っている（1位と2位が反転、3位と4位が反転、5位以下は全く同じ推移）。もし月毎の重みの違いが大きい場合は、月毎の順位と述べ利用数を比較した時にもっと乖離が生まれるはず（順位が良い≠利用数が多い、となるはず）である事を考慮すると、年間の利用数への影響が大きいのは、月毎の問題への対応より、年間を通しての1人1人の児童の欠席数であることがわかる。（特定の月に問題があるわけではなく、年間を通しての児童の利用割合の高低）</li> </ul>
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用割合に関しては振替療育とプラス療育の案内が最も影響が大きいため、職員とのその点については共通認識した。引き続き積極的に案内していく。</li> </ul>

<b>③顧客の視点</b>			
重点課題	保護者による評価の向上、維持	事業判定	継続
<b>実施状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末に実施した保護者アンケートの「事業所の支援に満足しているか？」の項目に関して、回答のあった42家庭全て「はい」の結果であった。内容を細かく確認するかぎり、『保護者支援』の重要性が考えられた。</li> </ul>		
<b>次年度に向けて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き保護者の満足度95%以上を維持する。また、児童への直接支援はもちろんの事、保護者支援の際に『具体性を持たせた相談内容』を続ける。</li> </ul>		

④業務プロセスの視点			
重点課題	保護者の思いに気付き、寄り添い、応える	事業判定	継続
実施状況	・管理者が最も意識してきた点がこの項目であり、同時に他の職員にも伝え、意識してきてくれたと感じる。保護者評価の結果をみる限り、今年度の当事業所の保護者対応は間違っていないと考えた。		
次年度に向けて	・引き続き連絡帳に記入された相談への応答、送迎時のちょっとした会話を重要視し、児童への直接支援と同レベルでおこなっていく。		
重点課題	新しいSST課題の挿入	事業判定	継続
実施状況	・SST課題の多くは、主に6人グループの中で実施してきた。当グループに参加してくれている児童の1人の保護者から、「本人、前日から楽しみにしています」という言葉もらった。少しずつSST課題のマイナーチェンジ、追加をおこなってきたことが、利用児童のモチベーションにも関連があると考えた。		
次年度に向けて	・引き続き課題のマイナーチェンジと追加をおこなう。新しい職員が加わったこともあり、新しい視点の課題を取り入れていけるよう職員全員でアイデアを出していく。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	それぞれの職種、各個人の視点を持ち寄り、事業所としての1つの支援形態を作る	事業判定	継続
実施状況	・1回/月以上実施している職員会議の中で、担当別（机上学習担当・制作担当・保護者相談担当）の会議を実施し、それを職員全体会議にも上げる形で実施してきた。情報共有をした後、必要な点を確認しあう現在の形を継続する。		
次年度に向けて	・引き続き担当別の会議、職員全体会議を継続する。		
重点課題	権利擁護についての理解向上	事業判定	継続
実施状況	・虐待防止委員会等で上がった内容を職員に報告する形で権利擁護についての認識を高めるよう努めているが、『権利擁護』メインでの研修等があまり実施できていない。		
次年度に向けて	・職員1人1人権利擁護にかんする情報収集をおこない、職員会議等で報告する。また、権利擁護関連の研修についての情報集めも継続する。		

部署名：通所系支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	【就労継続支援B型】 イベント開催方法の検討	事業判定	継続
実施状況	・事業所休業日に限ったスペースの貸出要項を作成。それをもとにスペースの貸出を行った。		
次年度に向けて	・本来の運営に支障のない範囲で地域活動への貸出や法人内連携事業で活用できるようにする。		
重点課題	【自立訓練】 カリキュラムの充実(目標値：1～2名)	事業判定	継続
実施状況	・月に1～2回の頻度で「園芸」を実施する外部講師を依頼。園芸療法を通して育てる喜びや達成感を感じられるような取り組みを導入した。		
次年度に向けて	・外部講師と調整し、内容のブラッシュアップを図る。		

②財務の視点																															
重点課題	【就労継続支援B型】 就労支援事業費の効果的配分	事業判定	見直し																												
実施状況	<p>・作業補助員の人件費やその他積立金を念頭に置いて作業収支の管理行うようにした。令和4年度の推移を見ながら、令和5年度以降の配分に関する調整について経営推進課と協議を行った。※数値は概算</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目(抜粋)</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入①(委託作業)</td> <td>5,864,859</td> <td>5,722,799</td> <td>-142,060</td> </tr> <tr> <td>収入②(飲食)</td> <td>4,635,530</td> <td>5,740,625</td> <td>1,105,095</td> </tr> <tr> <td>支出①(利用者工賃)</td> <td>5,880,177</td> <td>5,718,874</td> <td>-161,303</td> </tr> <tr> <td>支出②(人件費)</td> <td>825,827</td> <td>900,000</td> <td>74,173</td> </tr> <tr> <td>支出③(設備等積立)</td> <td>420,000</td> <td>600,000</td> <td>180,000</td> </tr> <tr> <td>支出④(工賃変動積立)</td> <td>358,129</td> <td>545,000</td> <td>186,871</td> </tr> </tbody> </table>			項目(抜粋)	令和3年度	令和4年度	増減	収入①(委託作業)	5,864,859	5,722,799	-142,060	収入②(飲食)	4,635,530	5,740,625	1,105,095	支出①(利用者工賃)	5,880,177	5,718,874	-161,303	支出②(人件費)	825,827	900,000	74,173	支出③(設備等積立)	420,000	600,000	180,000	支出④(工賃変動積立)	358,129	545,000	186,871
項目(抜粋)	令和3年度	令和4年度	増減																												
収入①(委託作業)	5,864,859	5,722,799	-142,060																												
収入②(飲食)	4,635,530	5,740,625	1,105,095																												
支出①(利用者工賃)	5,880,177	5,718,874	-161,303																												
支出②(人件費)	825,827	900,000	74,173																												
支出③(設備等積立)	420,000	600,000	180,000																												
支出④(工賃変動積立)	358,129	545,000	186,871																												
次年度に向けて	<p>・人件費や積立金の比率を見直し、作業補助員の対象を変更する。 (対象者勤務形態：週4日・1日4時間 → 週5日・1日7時間)</p>																														
重点課題	【自立訓練】 外部に向けた成果発表の機会 (目標値：1回/年)	事業判定	継続																												
実施状況	<p>・近隣外部施設を活用して、相談支援や関係者のみの参加に限定し開催した。参加できなかった関係者に対して実際の様子を伝えるための動画の公表(SNSの限定公開)に関してはほとんど利用者の同意が得られず実施できなかった。</p>																														
次年度に向けて	<p>・同意が得られる形での関係者への視聴方法の検討</p>																														

重点課題	【自立訓練】 イベントへの招待（目標値：5回／年）	事業判定	継続
実施状況	・7～12月に見学・体験会を月に1度のペースで開催した。集まり自体は思わしくなく見学会への参加希望が3件であったが、そのうち2件は利用につながった。		
次年度に向けて	・高校や相談支援を中心に案内を継続していく。		

③顧客の視点			
重点課題	【就労継続支援B型】 支援学校・企業との関係構築	事業判定	継続
実施状況	・年度内に4名（延べ5名、うち3年生2名、2年生2名）の実習受入を実施。3年生1名は利用希望されて3月より利用することとなった。		
次年度に向けて	・実習受入時の打ち合わせの際に、より実習期間を生徒にとって充実したものにするように調整を図り、卒業後に利用者したいと思えるようにするとともに、実習時から企業側とも情報共有を図り、関係づくりを行う。		
重点課題	【就労継続支援B型】 平均工賃30,000円の維持 （目標値：平均工賃30,000円以上）	事業判定	継続
実施状況	・令和4年度の平均工賃額は31,320円（前年度31,271円）コロナによる作業量低下は少しずつ回復傾向にあるが、逆に下がって元に戻りつつある作業もあり大きく変動はない状況。新規作業等の開始や飲食事業の売上向上もあり、平均工賃の維持は出来た。		
次年度に向けて	・光熱水費や燃料費の価格高騰による収支への影響、また前述の作業補助員の対象者変更も踏まえながら、作業の確保・飲食事業の価格改定を検討し作業収入の前年比10%アップを目指す。		
重点課題	【就労継続支援B型】 パンフレットの改訂（目標値：1回／年）	事業判定	継続
実施状況	・広報委員会（部会）を定期開催。前年度に実施していた業者との調整をすすめ、今までのものからサイズを含めた大幅な見直しを実施した。		
次年度に向けて	・必要に応じ見直しを図るとともに、授業風景の動画などSNSを意識した広報を検討する。		
重点課題	【自立訓練】 個別訓練計画の導入	事業判定	継続
実施状況	・会議において個別訓練計画について再度共有、その目的や内容について書き方を含めた統一を図った。		
次年度に向けて	・作成した内容をカリキュラムに反映していくことで、計画の有用性を高めていく。		

<b>重点課題</b>	<b>【自立訓練】</b> パンフレットの改訂（目標値：1回／年）	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・広報委員会（部会）を定期開催。前年度に実施していた業者との調整をすすめ、実際の写真を使用し、実際の風景や内容が伝わるものへと変更した。		
<b>次年度に向けて</b>	・必要に応じ見直しを図るとともに、授業風景の動画などSNSを意識した広報を検討する。		

<b>④業務プロセスの視点</b>			
<b>重点課題</b>	<b>【就労継続支援B型】</b> 就労訓練プログラムの作成	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・研修に参加し情報等を得るものの、書面化など形にはできておらず実践する機会も現状ではないため中断している。		
<b>次年度に向けて</b>	・障害者職業総合センターから公表された「就労支援のためのアセスメントシート」及び「就労支援のためのアセスメントシート活用手引き」などの活用を検討する。		
<b>重点課題</b>	<b>【自立訓練】</b> 学年制開始に合わせたシステムの見直し	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>
<b>実施状況</b>	・内容や参加人数などの兼ね合いにより合同で実施する機会もあったが、利用年数に応じた班分けで行いながら年間のカリキュラムを実施した。		
<b>次年度に向けて</b>	・新規利用人数が2名以下の場合、話し合うなどの場面で難しさがあるため、合同で行う割合を増やし、必要に応じて利用年数に応じた班分けで行う。		

<b>⑤学習と成長の視点</b>											
<b>重点課題</b>	<b>【就労継続支援B型】</b> ジョブコーチ的役割を担える人材の育成	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>								
<b>実施状況</b>	<p>・関係する以下の外部研修にオンライン及び動画視聴で参加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>研修名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04.07</td> <td>ジョブコーチの果たすべき役割（2名）</td> </tr> <tr> <td>R04.08</td> <td>職業的アセスメントで進める就労支援（6名）</td> </tr> <tr> <td>R05.02</td> <td>働きたいあなたへのシンポジウム（1名）</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ジョブコーチ研修は日程が合わず参加していない。</p>			年月	研修名	R04.07	ジョブコーチの果たすべき役割（2名）	R04.08	職業的アセスメントで進める就労支援（6名）	R05.02	働きたいあなたへのシンポジウム（1名）
年月	研修名										
R04.07	ジョブコーチの果たすべき役割（2名）										
R04.08	職業的アセスメントで進める就労支援（6名）										
R05.02	働きたいあなたへのシンポジウム（1名）										
<b>次年度に向けて</b>	・必要な研修について予定を調整し参加する。										

<b>重点課題</b>	<b>【就労継続支援B型】 内部研修の開催</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>																
<b>実施状況</b>	<p>・以下の研修を実施した</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>研修名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04.04</td> <td>個別支援計画とサービス等利用計画、相談支援について</td> </tr> <tr> <td>R04.06</td> <td>虐待防止研修</td> </tr> <tr> <td>R04.07</td> <td>ケース検討会（就労継続支援B型）</td> </tr> <tr> <td>R04.07</td> <td>ケース検討会（自立訓練事業）</td> </tr> <tr> <td>R04.10</td> <td>災害対策研修</td> </tr> <tr> <td>R05.02</td> <td>災害対策研修</td> </tr> <tr> <td>R05.02</td> <td>虐待防止研修</td> </tr> </tbody> </table>			年月	研修名	R04.04	個別支援計画とサービス等利用計画、相談支援について	R04.06	虐待防止研修	R04.07	ケース検討会（就労継続支援B型）	R04.07	ケース検討会（自立訓練事業）	R04.10	災害対策研修	R05.02	災害対策研修	R05.02	虐待防止研修
年月	研修名																		
R04.04	個別支援計画とサービス等利用計画、相談支援について																		
R04.06	虐待防止研修																		
R04.07	ケース検討会（就労継続支援B型）																		
R04.07	ケース検討会（自立訓練事業）																		
R04.10	災害対策研修																		
R05.02	災害対策研修																		
R05.02	虐待防止研修																		
<b>次年度に向けて</b>	<p>・法人が主導する研修と調整しつつ、事業所運営に必要な研修の企画を行う。</p>																		
<b>重点課題</b>	<b>【自立訓練】 カリキュラム実施におけるスタッフによる差をなくす</b>	<b>事業判定</b>	<b>継続</b>																
<b>実施状況</b>	<p>・年間予定していたコンサルテーションを開催。利用者の状況報告から支援の課題等の助言を受けた。また発達障害に関わる研修会への参加も行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>研修名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R04.09</td> <td>発達障害支援者基礎研修</td> </tr> </tbody> </table>			年月	研修名	R04.09	発達障害支援者基礎研修												
年月	研修名																		
R04.09	発達障害支援者基礎研修																		
<b>次年度に向けて</b>	<p>・合同で行う機会が増える為、その中で情報を共有しつつカリキュラムのブラッシュアップを図れるようにする。また事業開始からの経過を踏まえ、コンサルテーションの実施方法や内容についても見直しを図る。</p>																		

部署名：共同生活援助部(令和4年度)

①地域貢献の視点			
重点課題	加西市を中心とした重度者や医療的ケアが必要な方の利用ニーズに応えられる事業所作り	事業判定	継続
実施状況	<p>・通所利用者やご家族への利用回数増加を働きかけた。また相談支援事業所と連携し利用ニーズを把握した。</p> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の輝き（通所）利用者で医療的な観察（気管カニューレ）が必要な方が新規利用を開始した。（8月）</li> <li>・大空入居者では市内の方2名（希望の郷）が加齢により心身の状態が変化し、重度高齢化への対応が可能な大空の利用ニーズが増したことにより入居することとなった。日中は輝きを利用している。また利用者の状態に合わせてゆったりとした日課や関りに重点を置ける体制を整えて利用者支援を行っている。</li> <li>・通所利用者では定期利用日（曜日）以外の利用希望に応じた。またご家族の仕事や急用時は時間的に柔軟な受け入れを行い個々に応じた対応を行った。</li> <li>・医療的ケア（人工呼吸器、気管カニューレ、痰吸引、胃瘻等）が必要な方が同日に複数名利用することがある為、引き続き安全に受け入れる体制を継続する。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の利用希望を継続して把握し、利用につなげる。</li> <li>・医療的ケアが必要な方の利用日は看護師の配置状況を考慮の上、受け入れる。</li> </ul>		

②財務の視点			
重点課題	稼働率の向上（輝き）	事業判定	継続
実施状況	<p>・通所利用者やご家族への利用回数増加を働きかけた。また相談支援事業所と連携し利用ニーズを把握した。</p> <p>【結果、評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規：輝き（通所）1名（令和4年8月）、大空入居者（輝き）3名（令和4年6月、11月、令和5年1月）</li> <li>・通所者利用回数増：3名</li> <li>・年間利用率：80.5%</li> <li>・大空の空室（1～2室）が継続したこと、入居、通所者の入院治療が複数回あったことが利用率低下の原因となった。また通所者の利用キャンセルも一因となった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大空入居待機者の掌握（複数名）</li> <li>・利用キャンセルへの早期利用者確保</li> </ul>		

重点課題	送迎実施	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>送迎用の軽車両を9月に導入し、使用車両、ルート、乗員数等の送迎内容を見直した。また安全運転に対する研修を実施した。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>狭路走行時の接触事故に対する安全性が高まり、送迎対応者が増加した。今後の新規利用者への送迎業務がスムーズに行えると考えられる。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用中の利用者及び家族、他事業所や相談支援事業所等に働きかけ、新規送迎利用者を確保する。</li> <li>きめ細やかな送迎支援を行うことで利用者満足に繋げる。</li> </ul>		
重点課題	定員数維持（大空）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>希望の郷や輝き利用者、相談支援事業所等に働きかけて入居者を募った。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3名（令和4年6月、11月、令和5年1月）が入居した。年間利用率90.1%。</li> <li>上記入居者以外にも入居に向けての見学や説明を複数名に実施したが、コロナ禍により新規入居者が入居直後に外泊を行えないことが、ご家族等が入居を決断できない要因となっていた。</li> <li>空室期間が長引いたこと、利用者の入院等が利用率低下の原因となった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>大空入居待機者の掌握と空室発生時の働きかけ</li> <li>入居者の健康管理の徹底</li> </ul>		
重点課題	定員数維持（なごみ）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの感染状況を踏まえ、外泊を実施した。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間利用率99.7%</li> <li>利用者の外泊が少なく、健康的に生活できたことにより高い利用率を維持できた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の支援を継続する。</li> <li>入居待機者についての情報を集める。</li> </ul>		
重点課題	定員数維持（くつろぎ）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>外泊日数減少に向けて入居者と定期的に話し合いを行った。入居希望者への見学対応、入居説明等を行った。</li> </ul> <p>【結果、評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入居後に利用者一人ひとりの良い変化が見られ、利用者からは「くつろぎが楽しい」、家族からも「くつろぎに入居できて良かった」との意見を頂いた。</li> <li>令和5年2月より1名の方の外泊日数が減少した。令和5年4月後半に1名の方と体験利用契約を行うこととなった。年間利用率：52.5%。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末等の過ごし方については、各利用者の入居前と変わらない生活の継続を念頭に置きながらも、外泊日数の減少を継続的に働きかける。</li> </ul>		

③顧客の視点			
重点課題	人生の最終段階を考える	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たまた泌尿器科クリニックの玉田医師に協力頂き、1名の方(令和4年9月逝去)の看取り支援を行った。また看取り研修にて上記支援内容について振り返った。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度以降、看取り支援とその振り返りを続けることにより、職員一人ひとりが利用者の最期を向える為に必要なことについての認識が高まりつつある。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看取り支援を行うにあたり、利用者や家族との綿密な話し合いを行い、全職員で取り組む。</li> <li>・一人ひとりの職員が利用者の看取り支援から多くのことを学ぶ姿勢を持ち、支援経験を積むことで看取り支援の質の向上につなげる。</li> </ul>		
重点課題	日中プログラムの充実（機能訓練を含む）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミャンマーの紹介、スヌーズレン、季節野菜の植え付けや収穫、各季節行事、創作活動、外出、音楽療法、機能訓練等を実施した。また満足度調査を令和5年2月に実施した。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度調査は入居者対象では満足、やや満足が項目により64%~100%、通所対象でも64%~100%となった。</li> <li>・障害の重い方のペースに合わせた手厚い関りが利用者や家族に対して良かったのではないかと考えられる。満足度調査では日中活動の項目に対し、良い評価や意見があるが活動の種類が少ないので、未経験の活動も含め個々のニーズに合わせた取り組みを模索する。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の実施内容に対する利用者の意向を踏まえ、更なる内容の充実や活動内容のレパートリーを増やすことを検討し実施する。</li> <li>・利用者の持てる能力や創作活動を社会参加に繋がるように働きかける。</li> </ul>		
重点課題	事業所のPR	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大空輝きだより」を年3回発行した。(令和4年7月、11月、令和5年3月)</li> <li>・SNS(インスタグラム、フェイスブック)により事業所の取り組みを発信した。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSのフォロワーが少しずつ増えてきている。家族からは事業所での様子が分かるので良いと好評だった。特定の職員がSNS投稿を行っているため、投稿回数に限りが出ている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSの投稿を行う職員を増やし、投稿回数を増やす。</li> </ul>		

重点課題	高齢重度障害者の支援に特化したサービスの充実	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各利用者の個別支援計画に基づいて支援を行った。また利用者の状態の変化に応じて、食事や各場面の介助方法等を変更した。</li> <li>・医療的ケアが必要な方が利用する曜日には、安全面を考慮し看護師の複数人配置を行い緊急的な医療ケアにも対応できるよう留意した。</li> <li>・大空入居者については高齢となり認知機能や身体機能の低下が見られた利用者の受け入れを行った。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通所の輝き利用者から利用回数増の希望を頂いた。また日中や夜間に利用者の状態に合わせた関りが行えたことにより、利用者の表情に少しずつ変化が見られた。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面を最優先しつつ、利用者の状態の注意深い観察により、個々に合わせた支援を行う。</li> </ul>		

④業務プロセスの視点			
重点課題	業務の標準化	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規マニュアルとしてSNSによる情報発信、ヒヤリハット発生時の対応、生活環境チェックを作成した。また新型コロナウイルス発生時の対応、感染予防、投薬マニュアルは見直しを行った。</li> </ul> <p>【結果、評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パート職員や支援会議に出席しない職員への周知方法に課題が残る。またマニュアルとして書面に出来ていないものもある。(受傷後の対応等)</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員へのマニュアル周知方法の再検討と実施。</li> <li>・未作成及び見直しが必要なマニュアルの作成と見直しを行う。</li> </ul>		
重点課題	事業所の目的の共通認識	事業判定	終了
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用者受け入れ時の利用者情報の共有、受け入れ態勢を検討していく中で、事業所の目的等についての共通認識を確認、周知した。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な利用者支援や看取り支援、家族との関わり、職員間の情報交換を通して、一人ひとりの職員が事業所運営の目的に対する共通認識を持つことが出来ていると考えられる。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用者受け入れ時の利用者情報の共有や受け入れ態勢を全職員で検討していく中で、事業所の目的等についての共通認識が図られたと考えられる為、重点課題としては終了する。ただし今後も新規入職者には事業所の目的を伝え、一員としての役割を果たせるように指導する。また継続的な職員研修を通して、事業所の目的を再認識できるような取り組みをする。</li> </ul>		

重点課題	会議の活性化	事業判定	見直し
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議回数は行事9回、日中活動検討7回、虐待防止3回、事故防止・防災7回、機能訓練3回、医務(感染症予防)3回、看取り支援2回、環境1回、研修1回、広報3回を実施した。</li> </ul> <p>【結果、評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事主担当や委員会リーダーによる主体的かつ計画的な会議運営がやや弱く、会議録提出が滞る面がある。通常業務(送迎、入浴等)により会議メンバーが揃わないこともその要因となっている。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議運営について支援会議の場で周知すると共に、会議録管理を再徹底する。</li> <li>・支援状況に応じて実施可能な時間帯に集中して行う。</li> </ul>		
重点課題	事故防止とリスクマネジメントの確立	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハット記録を基に事故防止策を実施した。また対策までのフローチャートの周知や事故防止研修を行った。</li> </ul> <p>【結果、評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介助業務中の事故(転落、転倒、切傷)や誤薬、敷地内での車両の接触が複数回発生した。利用者の身体状況の変化(転倒)やルールを守れていないこと(誤薬、投薬漏れ)が事故原因であった。また受傷後の通院判断や創部への処置が適切ではなかったことにより利用者が入院することとなった。</li> <li>・また令和5年2月に被介助時の受傷後に利用者個々の基礎疾患や心身の状況を踏まえた傷の経過予測と受診可否の判断を誤り、利用者が入院することとなった。</li> <li>・各利用者の心身の状態把握と受傷等によるその後の心身への影響を熟考した上で、日々の支援及び看護業務を行わなければならない。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の受傷後の対応は看護師を中心に再発防止策を徹底する。</li> <li>・利用者の命を預かる仕事であるという認識を一人ひとりの職員が高める。</li> <li>・新規入職者に対して利用者の状態や支援状況を伝え他の職員と共通の認識が持てるよう今後も働きかける。</li> <li>・日々の生活において利用者の状態に変化が見られた場合(受傷による通院後も同様)は、専門科への受診による検査と診断に加え、医師に経過観察項目の指示を仰ぐ。看護師と支援員が利用者にもその後起こりうるリスク把握と細やかな観察を継続し、変化があった場合はすぐに再受診する。</li> </ul>		

重点課題	的確な記録を作成する	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の目的、具体的な記入方法について内部研修を実施した。また「ほのぼの」の契約期間終了により「ケアカルテ」を導入し運用を開始した。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・iPhone の導入で支援実施直後の記録入力が可能となり、記録漏れが減少した。また画像での記録により、利用者の様子や具体的な状況が把握しやすくなった。</li> <li>・赤文字の利用により重要事項（ヒヤリハット）が把握や周知がしやすくなった。</li> <li>・5W1Hを踏まえていない為に、状況が分かりにくい記録も時折見られる。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況が分かりにくい記録については、OJTを行う。</li> <li>・ケアカルテの機能を活用し更なる効率化と質の向上を図る。</li> </ul>		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員のスキルアップ（介護力・支援力・倫理観を高める）	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が講師役となり内部研修を毎月実施した。（接遇、リスクマネジメント、記録の目的・方法、介護技術、意思決定支援、感染症予防、看取りについて、虐待防止）</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修資料を作成する段階で自分の考えをまとめる、他者へ内容を伝わりやすくする方法を考えること、また研修時に他者に伝えるということにより発題内容に対して、知識が深まると共に責任感が醸成されたのではないかと思う。専門職としての意識を高めるためにも次年度も同様の方法による研修を継続したい。</li> <li>・各月の内容については研修委員会で決定したため、参加者にとっては必要な内容ではあるが受動的な面もあった。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員へ研修内容についてのアンケートを行い、より主体的に学べるよう工夫する。</li> </ul>		
重点課題	虐待防止への取り組み	事業判定	継続
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止委員会（本会）が実施するセルフチェックリストを2回実施した。虐待防止委員会にて結果を分析し、全体にフィードバックした。</li> </ul> <p>【結果・評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックリストの実施とフィードバックは各職員が利用者支援の内容を振り返ったり、困っていることを共有したりする場であった。また案件についての詳細を調べ、具体的な状況を明らかにした上で、虐待につながる案件に対する防止策を話し合った。</li> </ul>		
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記内容は虐待防止に効果がある為、継続して丁寧に行っていく。</li> <li>・虐待チェックリストの結果から挙げた必要な支援については、個別支援計画の見直しに繋げる為に適時、モニタリング会議を行う。</li> </ul>		

